慈濟 231 慈濟基金會 2016年3月

TZU CHI ● ツーチー

慈濟基金會

Ν

南アフリカ・ダーバン

その慈愛に満ちた姿はいつも人を感動させ 拠り所となって寄り添うよう努めている。 貧困者や病人に対し、ボランティアは心の るものである。

(撮影・蕭耀華)

表見返し

善の念は

文・證厳法師/訳・済運/撮影・楊秀麗

世の模範

悪を善に転じれば 仏法を聞いて悟りを開き 作物の収穫を減らします 養分を吸い取り 毒を持った雑草が生い茂るように 悪の念は 衆生に滋養を与えることができます それが芽を出せば 無数の善の種子をまくことができ

この世の模範となります 誠意を持った奉仕は



ĩ	画 済運/訳 裏見返.	静思語 盧慇/訳 75 漫画
ĩ	連/訳 表見返し	世の模範
105	済運/訳	慈済大事記【一、二月】
98	心嫈/訳	純粋な愛を取り戻す【衲履足跡】
90	慈願/訳	ムームーの宗教と大愛【大地の守護者】
86	翁俊彬/訳	ハリケーン・サンディから三年後【愛のりサイクル】
76	慈願/訳	高麗紅柔軟であるほど力強くなれる【ボランティアスケッチ】
64	慈 願 / 訳	死をも恐れない 【證厳法師のお諭し】
50	黒川由希/訳	一歩一歩教育を再建する【希望工事・ネパル】
36	黒川章子/訳	四宝の温もり【草の根の菩提】
8	済運/訳	ズールー族ボランディア出国日記【主題報道・南アフリカ】
4	慈願/訳	

慈済の原点

◎訳・慈願

4

が 二〇一五年が終わるころ、 面々と連なり、 が慈悲心を以て若干の弟子を率いて始めた慈善活動も、 ボランティアの数は遠く外国の僻地にまで及んでいる。 慈済が設立してから半世紀が過ぎてい 現在では菩薩 た。 證 \mathcal{O} 厳 伍 法

誠隊員 なる人々 の法益を相互に反映している清らかな心霊風景は称賛に値する。 昨年の の認証を受けに帰っ 歳末祝福会には、 が 堂に会したのだ。 二十八カ国からボランティアが台湾へ慈済委員や慈 てきていた。 利他精神に基づく同じ所作で、 肌 の色や宗教、 文化的 慈済 背景が異なる善 人文や静思

象は、 にありながらも その中で一段と人目を引くアフリカのボランティアを、 と親しみを込め 貧しく、 病気が蔓延する土地というものだが、 人助けをする菩薩たちの多くの伝記がある て呼んでい る。 私たちが一般的にアフリ そこには自分たちも苦境 證厳法師 カに対し は 7 黒 抱く 1 前 真

寄せるようになった。 アフ が家に火をつけたため、 あるズー IJ 慈悲心を以てエイズ患者をケアしている。 カで慈済の活動を推進している台湾 ル 族のボランティアは結婚後、 二十年来、 彼女は着の身着のまま子供と逃げ出 彼女は不幸な心の傷を持つ女性たちを教え導 人に助けられ、 苦難の連続だった。 貧苦の した。 夫の浮気相手 同 その後、 胞に関心 南

多国籍の ボランティ 数年前から南アフリカの 組織を作っ ア活動に出か て五カ国 けるときは、 「黒い真珠」はさらに隣国のボラ $\overline{\mathcal{O}}$ 貧民の 食事は簡単に済ませ、 ケアに当たってきた。 泊り 疲れると木の下で ンティアを募り、 が けで遠出の

 5
 2016・3月

 整済ものがたり

ベ 十万五千 み、 そのさまはまるで古代 丰 口 に達 地球を約 0 修行者さながらだ。 周半 歩 ĺ١ たことになる。 彼女たち が 歩 ĺ١ た距 は 延

6

は ジンバブエ に達した。 の礼を心に マンゴ 昨 年 |末に台湾 とどめ 菩提 \mathcal{O} 木の ボ ツ \mathcal{O} \sim 下 認証を受けにきたアフリ 7 ワナに芽生え、 種子は南アフリ 11 で研修会を開き、 る。 ボラ カの シテ 地べたに座って慈済の縁起を学び ソ 力 1 Ļ ア の慈済委員と慈誠隊員は百 \mathcal{O} ス 数は ワジランド、 万人近くに上る。 モザンビ 人近く ク、

る から が この 困難な中 始まった活動資金は、 光景は五十年前の苦難に満ちた慈済 で善行に奉仕したが、 人助けから心を救うさまざまな志業を生み出し その道を求める心は堅く、 \mathcal{O} 早 -期を思 V 出させる。 日 五 毛銭 同 の募金 物資

るの?」 ランテ は豊か 7 11 、ます。 歌い 慈済 ながら 1 \mathcal{O} だか アによ 根 満たされ 「私たちは 源 踊っ らと言って心に恨みをため は 0 「竹筒歳月 て人々を励まし導く。 てい て再現されて お金がない る。 彼らは 精神」 の、 11 る。 にあ 同胞に ただ愛があるだけ る。 彼らは物質的 てはなりませ 私 「どれだけのお金があれ そしてこれは、 は 無一 物 には貧しくとも、 ん の辛さを痛い と言ってい 今またズ ば慈済に入れ ほど知 その る。そし ル って 族ボ

る志 に 衆生同 によっ 信仰 け 「柔和忍辱」 0 られる者、 原点である。 \mathcal{O} て己の 体 背景は異な \mathcal{O} を学び、 単純 この双方が抱擁する時、 煩悩や苦しみを超越している。 いって な信念があるだけだ。 ŧ, 誠を大切にし、 彼らは慈済の大愛に育まれ、 二人の間には 猜疑心をなくして これが慈済 人助けをし、 V 人が社会に入って活動 かなる境界線も 宗教 試練を受けるうち る。 の異なる 助 切ける者、 ない。 利 他精

2016・3月

7

慈済ものがたり



年女性た 南ア ち か 外国で慈済

四

0 困 病 喘

愛の

菩薩たち あ

◎文・ 鄭雅嬬/訳・済運/撮影・

モザンビー

マプト

南アフリカ

ボート・エリザベス

ボツワナ

ヨハネスブルグ





ど毎日、十四 問をする軌跡を記録 き出しをしたり、 た「国際ボランティアグル カのズール ついたミニバンに乗っていた。 (慈済三号) というナンバ 彼女たちが国や州を超えて各地で炊 Cカ南部で取 <u>一</u> 五 ー族ボランティアで結成され 一人乗り 年十月半ば、 貧困者や病人 \mathcal{O} \overline{T} て Ζ た私 広大な ープ ープ」に u С レ は 0 南 家庭 ほ T T 加 フリ フ わ IJ

えて活動した回数は七十八回で、その移国で慈済志業を立ち上げた。国や州を超は二〇一二年に結成され、今までに四カダーバンの国際ボランティアグループ

三百日を超えている。
がループに分かれて活動するが、毎年動距離は延べ十万キロ以上に達する。小

を使用させてもらってい パパ」の了承の下に、 が経営する会社である。 華僑ボランティアの朱恒民と袁亜棋夫婦 U」という材木工場から出発する。 車もそこに駐車している。 の会議や文書の作成を行う 女たちが遠出する時 団体はその事務所 る。 長老であ 必ず、 ほ ボランテ カン る「朱 そこは C Н

部の慈済の活動に役立つとはね!」なる。「この小さな工場が広いアフリカ南亜棋は思い出す度に不思議な気持ちに

第一歩 シルバーグループの出発

私たちを見送った。 件を言づけた後、「C ス ワジランド や撮影器材及び交通費などをドライ タ 四十二回目に国境を越えて行く先 = • シビシに渡し、 である。その朝、 Н U から 11 亜棋 出発す <つか用 には資 バ は

ティアと一緒に出かけることは 彼女自身は家庭と仕 T が グ 良き友でもあるのだ。 たり良 ルー 出する時の支えであ プと共に V 方策を考えてくれ あ \dot{O} り、 関係 できな 毎 で ボ 回]ボラ ラ V

> 激しい。 ひとり、 市場、 他の ゴ ンジが次々 くがバスでこの集合地点にやっ は重要なバ 地 まもなくグラディス・ . ウ • 区 一発か ボランティアと待ち合わせた。 露天商が のガソリンスタンドに立 各地から来るボランティア ン ら三十分ほどして車は コボ、 ス 対面の私とし に到着した。 アビゲー の中継地で、 ひしめき、 コ ンフ ・セテ ンゲ イデンス 0 彼女たちは 車と人の往来が 辺りには店や カン 7 り て来る。 とト ウ 1 立ち寄り 工、 そこ シャ П K ケ

-年のコンフィデンス以外は皆六十歳

て で慈済の える歳であ を超えてお いた。 は最年長のボ 0 自分は 活動 る。 ŋ 12 ラン 参 + 中 加 府 で 八 、歳だ テ できるのだ、 カン 1 七十 5 から、 老 T んだが 九歳 八手当 あちこち \mathcal{O} と言 彼女は が t 口 ケ 0

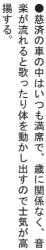
が悪かっ たことがある。 ならない ス タ 小 で 亜棋に 極 な ださ ·
亜棋、 的 たの よると、 のです。 な 慈済 0 てきました。 私は大丈夫です。 で出かけることを禁じ 「その時、 私は高齢な 0 ある時、 行 活 動に参 かせてください 彼女は私 1 です 加 \mathcal{O} 口 で ケ な カン 心 レ け 5 n 配 は れば Ē 時 6 体 間 な 0

> 言 Vì ま た

> > 16

布に た皺 ンテ できれば、 6 彼 0 0 0 たが た。 7 が見て取 イ n くるん 女たちの おり た場所で愛を広 を募っ は \mathcal{O} 多庭訪 でゆ それに超 体が不自 志業を続 袋で れた。 黒 少 た。 し歩 0 VI 問が 皮膚 ŧ したことはない 由 体 ŋ け め できな 引 な と呼 た つきは で る話を 0 t ぱ は も募ることが 11 が 全般 う 米 は 月 0 い を担げ 揺る \mathcal{O} 気持ちで に てボラ で、 に 刻 なる が 丸 ま な 力 な

所を設立 九 兀 して以来、 年に慈済が ダ 今では約五千 バ 連絡 人の 事



ボラ

ン

イ

T

が

百

0

地

分

て

 \mathcal{O}

そ

 \mathcal{O} テ

中には

国

ラ

イ

T 布

ル

人員が

人

ほど · 際 ボ

V

る。 シテ 域に

彼ら

皆経

t は ゲ

え

ょ 耐

0



霊富な上 る。 各ボランティアの ながら担当者の 亜 一に有能 棋は毎月、 で、 リストを作 状況を見た上で相 活動 辛 V ことに の内容に

0

第二歩 長 い道程

けることになり、 そ 人 の日 は そ 華僑と現地ボラ て、 私とカメ 荷物を車の ラ ン テ 1 7 ラ 1 で出 T ク \mathcal{O} カン 計

慈済ものがたり 17 2016 • 3月

も数袋、 した食べ物と飲料水も積まれて うづめだった。 入れ -とパソコンなどのお茶会に使う器材を たからだ。 てから乗りこんだ車内はぎゅうぎ 通路に置いてあった。 また、 出入り 口にプロジ 亜棋が前 あり 日に用意 エ クタ Й

えて ての を伸ばすと共に安全確保のためにも、 たため、以前からあった「慈済六号」 距離に使用するためと座席も不足し に清掃と点検を行うようにした。 二〇一三年、 座席にシートカバー 「慈済三号」を購入した。 ダーバンのグル -をつけ、 使用年数 定期的 プ に加 は 7

遠出する時、 車は人と物資でい っぱ い

> たりすれば簡単にパンクした。 ŋ 砂利道を走ったり尖った物 イヤ は重圧を受け て悲鳴を上 に当た 0

の他 に出 国境を越えて二千キロ離れたナミビア は車である。 かける時だけ は飛行機で行くが、 そ

南北 ス ワジランド 0 長さの一・五倍である。 へは六百キロ 台湾 \mathcal{O}

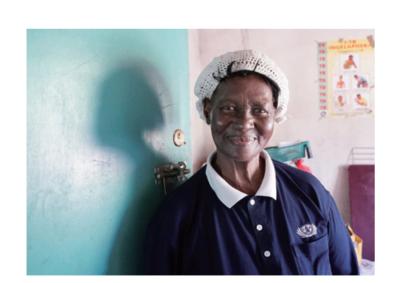
る。 あり、 てモ その ンビー スワジランドから再び国境を越え 台北から嘉義までの距離に相当す クに行くには二百五十キ 口

ル・ 国境では ナタル省の中だけでも百五十の地域 なく、 バ ン を出て ク ワ ズ

号の だ。 ちの バー キロ で世話 聞 精神力と体力に試練を課して 0 酷使を意味するだけでなく、 1 \mathcal{O} ただけで躊躇しそうな距離は慈済 注意力と若くないボランテ 面積は台湾一・七個分に相当する。 しており、幅百五十キロ、長さ四百 ドライ 1 11 アた る

今回、 イアグ の執行長をしていた時に立ち上げ 台湾から来たボランテ 私たちに同行した。 ループ」 は彼が慈済南アフリ 1 「国際ボラ ア の潘明 たも カ支 ンテ 水 は

いなかっただろう、といううなでも楽しく長生きして加していなかったら、こんなにも楽しく長生きしての高血圧の持病を持っているトロケレは、慈済に参



18

けている 頻繁に彼女たち で ある。 が は <u>ک</u> — 現 あ 地ボ まり変わ 緒に ラン あちこち らず、 テ 1 T 今でも に出 \mathcal{O} お

間も車 リア つも常備薬を携帯し の不具合や高 力も衰えた。 時間ボランテ などの 近年、 コルセット ĺ てからダ 遠出 \mathcal{O} 慢性病を持 彼は目 中で我慢していたが、 した時に病気になり、 血圧 国際ボランテ を 1 つけ ア活動に バンにとって返し、 に見えて てい 糖尿病、 なけ つ人が多く、 る。 参加する時 ればなら 1 力 ある時、 アには が衰え、 膝関節の 目的地に ず、 十五時 病院 胃 老 7

一急行したことがある。

20

であり、 ランテ えた。 動するだけです」と笑いながら か? この は潘 グル 明水に聞 イア すると彼は、「それ 弟子とし グル プの いた。 ープを結成 ては言われ 大変な苦労を 「どうし は したの 上人の祝福 た通りに行 簡潔に答 て 聞 玉 11 です

を広め れゆえ私たちは国境を越えて愛と善の 身共に辛い目に遭 いることに 人の \Box 人生に影響を与えなけ 私たち V に師匠は は 「アフリ \mathcal{O} 生命を使っ 心を痛めています。 0 て カにはまだまだ、 V る人がたくさん n てより多く ばならな 力

距離ドライブであっても、 何度も いた 1 だから、 のです」と意味深い説明をつけ ない 0 体中の疲れを交互に感じるほどの長 眠 が 0 V 7 . つ の 初めは車の しまい、また、空腹とトイ 間に か静かになったり、 中で元気に歌って 文句を言う 加えた。

第三歩 大衆の中に分け入る

はほとんど毎月ここを通っている。紺色続きをした。この四年間、ボランティア時、私たちは車を降りて検問所で入国手車が南アとスワジランドの国境に来た

に入る 列は 以上費やしている。 きを行うため、 可 と車 \mathcal{O} ツに 0 は 一両の 簡単 人目 白 検問所でい を引い 出国許可などの行政手 ではなく、 ンツ姿の た。 つも二、三時 規律正 彼女たちは スワジラン 就 K

茶会で講演 け加えた。 地区で経験を積む ことが条件で、 は真面目に慈済の活 「国際ボランティアグ 人前で自分の経験を話 て語 ることができ、 以前はグラディ てい できなけれ た。 のです」 ほ 動に参加 ル カン と潘明 愛を広 スだけ ば自分た のボランテ たり プ \mathcal{O} が善道 のるお で が きる 11 \mathcal{O} 0

22



● (上) グラディスは国際グループの重要な幹部で、ほとんど家をあけている。子供や孫たちは物分かりがよく、彼女に心配をかけることはない。

● (下) アデレードは娘を亡くした悲しみは消えないが、心を正して時間とチャンスを無駄にせず、国際グループの活動に参加している。

のが怖かったのだ。

B

ベ

る

「初めは励ますと共に半強制的に壇上でしゃべる機会を作って練習させたので、皆、次第に普通に人前でしゃべれるようになっちに、大衆の中でしゃべれるようになっちに、大衆の中でしゃべれるようになりました」。彼はボランティアたちに、大衆の中でしゃべれるようになりました。

所で、 て話しかける。 もボランテ 休憩所の木の下、 ソリンスタンドや公衆 ·日差 ア 相手はボランティア は人を見 の中でも または道路脇など至る か け 雨や風 ń ば近寄 \mathcal{O} の話 中で

> 隣近所も訪 が暮らす薄暗い たい い と望む ね、 カン しように ら喜び 住居を訪ねる時は、 緒に世話をし と感動 なる。 が生じ 貧 そ 病 て奉

て聞 悩みを聞くと共に自分たち ラと知り合った。 て民宿に泊まらなけれ ル かせたところ、 V ての慈済ボランティアとなり、 そこの従業員 プ と申し出 は以 プ の宿 た。 ボランテ 泊に彼女は自宅を使 彼女は感動 宿 彼女はその地域で 0 ばな 泊 先に問題 5 ロリ \mathcal{O} ことも話 が T 彼女 0 その ザウ 0 0

なった。
族や友人も誘って慈済に参加するように

げに言った。 学ぶと共に、 ビデオカメラやスチル アビゲ ア活動の ・は慈済 詳細と感想を記録 毎晩、 ル ははにかみながらも自慢 \mathcal{O} 日誌を書 活 力 動 メ を行 ラ \mathcal{O} VI てボラ 使 て 方を \otimes

第四歩 往路は遠い

現地ボランティアが列を成して入り口でランドのムヒラネの集会所に着いた時、八時間車に揺られた後、夕方にスワジ

ワジランド ボランテ で し合った。 出 迎え イア てく の幹部とその後数日 ĺ 時間 た。 そ を無駄にせず、 \mathcal{O} \mathcal{O} 日程を バ ス

24

に互 が同 の言葉に堪能で頭の 」時通訳をした。 国のボランテ 1 語を使って話 の考え方を伝達するために、 し合っ 1 回転が速い ア は皆 7 V たが 英語 ゥ لح 双方 正 1 ズ ゥ

二〇一五年に台湾で委員の認証を受けた ボランテ 彼女は慈済に参加 笑顔を絶やさず謙 0 イア、 進行を進め ムンシ た して三年ほどだが、 感遊な態 ス ワ ジ ラ 度で臨ん メ ラン \mathcal{O}



三人のうちの一人である。

私たちはダーバン 善行を考えたこともなか ムン それゆえに毎月、 貧困で、 アをしに来てい と彼女が言った。 アがどのように苦労 スワジランド 彼女たちは心が落ち着き、 は女手一つで二 三食にも苦労し 0 師姐たちは皆金持ち たのだと思っ 国境を越えてボラン のボランティ 0 人の子供を育 た。 てきたかを て るので アは全 のボラ 7 ま

奉仕している愛と勇気は限りなく果てしない。 んでいる。せまい空間は一目で見渡せても、彼女が は二日子はシェアハウスのアパートの一部屋に住

ようになった。

た彼女は生きていくのが恐ろしかった。
をいにも家が燃えただけで、彼女と子供たちは難を免れた。当時、全てをなくしたが、な方になったが、

「慈済と出会った頃、私の心は憎しみがいっぱいで、相手に復讐してやろうと思いっぱいで、相手に復讐してやろうと思た」。彼女は台湾からの物資を受け取り、た」。彼女は台湾からの物資を受け取り、やがてボランティアと村人の間の通訳をするようになった。

憎しみは長年消えることはなかった。 り、二人の甥が れた。 肉親を亡くした悲しみで、 の銃弾を受け、 アデレ ある晩、 k, 殺され 危うく死ぬところだった。 ンジャ 彼女の家に強盗に た。 彼女も体に も悪運に 強盗に対する 見舞わ 八発

26

に消えていきました」
り、家庭訪問して病人の体を洗ったり孤り、家庭訪問して病人の体を洗ったり孤の教えに従って大愛で自分の地域を愛することで、心の中にあった憎しみは上人のだったが、心の中にあった増しみは次第

た後、ダーバンの各地で政治闘争が始ま一九九四年、南アフリカで政権交替し

も の で若くして死んだ。 になった。 の村は支持政党が異なるために関係を絶 十数年前に勢力が二分され となった。 互いに越境しようものなら武力沙汰 村が火をつけられ 々は トロケレが住んでいる地区も 彼女の孫もそのような状況 情緒が 不安定になって _ てから、 夜にして廃墟 二つ 下 1

 \mathcal{O} 出して村の 対話を申し込んだ。 のだろう どうに П コ ボ を誘っ もう一人のボランティア、 か、と自問した。 かしてこの は慈済ボランテ て隣の村 酋長夫人であるミ 状況 こへ和平の 彼女は勇気を を変えら 1 ア を自 た ħ 121 8 な

いは少なくなった。では国の政治環境も変化し、村同士の果、次第に双方の緊張が解けてきた。

何回も

誠実な態度で対話に臨んだ結

今

第五歩 独立と困難の克服

座の であ 出か \mathcal{O} て冬季の 精神的な意味を教えたりした。また、異 ここ数年、 準備を けてい るが スワジランド 配 したり、 る。 付活動やボラン 現地ボランティ 南 ア お茶会と家庭訪 では T 灌仏会や歳末祝福 フ ij 昼 力 アに テ 蕳 \mathcal{O} に イ ボランテ ア養成 つき添 間 ごが基本 区に 蕭 0

27

き、 なった宗教を信仰する大衆 車の にも そこでは様々な所に宿泊 . (T) 地域に深く根ざす 日 程を終えた後、 答えた。 現地の華僑が経営する南緯実 また、 方法を話 九回も モザ した。 ンビ カン Ż 5 ワ \mathcal{O} 合 ジラン 木の下 クに行 った。 問

ジラ 業公司 水、 舎、現地ボランティアの家などである。 \mathcal{O} 食堂または会議室に早変わ ボランティ ・場所ではないの ンド |実に歩みを進め の宿舎と会議室、 では五十 蚊に悩まされたことも T が分散する規模にまで成 で、 の居住地 た結果、 同じ部屋が厨房 台湾技術団の ŋ 区に千五 たり、 0 あ とス る。 百人 ワ B 宿

> ある ンタ 0 て次第に $\bar{\mathcal{O}}$ L 集会所 を建設す _ に我家の 脇に ź。 あ 六年 ような場所に る空き地に そこは に は ボ 彼女たちにと ラ 慈済 な テ 地 ŋ 1 区 T 0 セ 宿

> > 28

言 を学ば 対 つき添うだけで、 5 潘 7 皆さんは自力更生し て、 なけ 「華僑ボラ は れば 玉 際 ボラ VI け 11 ませ 0 カン テ イ ん て強く は T 1 ここを去 は T とは 皆 な ル 時 0 ること きり 的 ŋ プ ま

水することが分っ ド - で宿泊 て 11 た。 た時 グ ボランテ ル そ \mathcal{O} プ 後数 が 1 ス 沿間 T ワ はダ ジ 断 ラ



て自分たちで解決することにした。けを請おうか否か躊躇したが、考え直しーバンの華僑ボランティアに電話して助

に 水を汲み、 てきて、 相談 面に使っ 彼 女たち 車 それを持ち帰 はス 難関を乗り越えることができ でボラン 水を 入れるタン ワジラ 節約 テ 1 0 ド T て料理、 ボラン ながら水を使 の家に クを数個借 行 テ 0 イ 7 V) T

■慈済のことをもっと遠くまで広めるために、ボラを慈済のことをもっと遠くまで広めることを明正しくパソコンの操作ができるようになることを自いたようになることをもっと遠くまで広めるために、ボラ

30

するようになった。
●南アボランティアが率先して行った結





た。

だ 学ばなければならない。 する皆の信頼 をこう書 その 自分たちで困難を乗り越えることを 困難を克服する手助けができるの V て メ いる。 と期待を裏切らな 「遠出し は日誌に当時 そうして初めて た私たちに対 1 ために \mathcal{O} 心境

第六歩 心の導き

る。 語で会話するので、 慈済号の ダー バ 車 のボランティアは 中 は 舌を撥ねる音と語 つも にぎや ズ カン であ ル 尾

思ってしまう。
はいつも彼女たちが喧嘩しているのかとに、彼女たちの元気な声が響き渡り、私

二十年近くになる潘明水は五割 解できると言っ て注意して の言動を見守り、 「時には本当に喧嘩 バンのボランティ ふりり いる。 を 7 11 適当な時 るが、 てボランテ アと 7 1) 期を見計 つき合っ る 0 1 0 ほどは理 湯合は アたち です 5 7 0

く、一人ずつ個性が突出している。これ喧嘩や善意の嫉妬をしやすい上に誇り高潘明水によると、ズールー族の性質は

てくれます」

でくれます」

こくれます」

こくれます」

こくれます」

ことを好み、行動力に富んでいま

の性質のもう一面に彼は力を注いでい

までに九回出かけている。
国際ボランティアは国境を越えて行動

かっ くない たため、 8 は深夜で、 上 に G て南部に出 道に迷い PSを正確に使 予定の倍 かけた時、 、続け、 0 時間が 地理に 目的地に着 いこなせな カコ カン

ってしまった。

グラディスはその時のことを思い出し、「道に迷った時、皆がそれぞれこっちだ、あっちだと自分が思う方角を見失って譲らず、ついには口を利かなくなってしまいました。暗くなって方角を主張してから、やっと怖くなり、後悔しました」

と共に、一人ひとりが悪癖に気をつけてはは、鑑真法師が仏法を伝授するため日中国南部にも漂着した話をして聞かせ中国南部にも漂着した話をして聞かせた。そして、皆に努力して慈済を広める

心を正すよう注意を促した。

「現地ボランティアの心を正すよう に、と上人は私に言ったことがあり に、と上人は私に言ったことがあり に、と上人は私に言ったことがあり は大愛テレビの番組《人間菩提》を見 は大愛テレビの番組《人間菩提》を見 は大愛テレビの番組《人間菩提》を見 は大愛テレビの番組《人間菩提》を見 は大愛テレビの番組《人間菩提》を見

互いに心を通わせる。●スワジランドのボランディアたちと意見を交わし、だんだんがランディアがダーバンの



いる。 匠と対話し 会の主題を選び、 て いるような感覚を持たせ ビデオを見る過程で 7 師

強く、 に往 っているため、 0 ŋ カン かりと解釈 勉強会では 々 日常生活に応用してい 心が静まったその時に智慧を汲み 彼女たちが法を求める気持ちは て二時間近くかっ いした後 言 十五分のビデオを見るの 言通訳 に討論する形式を取 して伝え、 てしまう。

けら ミニが い態度で臨めば れたことがあるが、 精神疾患 *が*ダーバ 0 ンの ある人にナイフで斬り 地域活動に参加 危機的状況を変える 忍耐力で以て優 \sim た

ことができると感想を述べた。

り、 った。 強会を経て次第に優 まっ や暴力を抑えることができるようにな 過去の出来事を例に挙げて意見の違 てできたダー つて憎 しみ合っていた人々が バンのグループは、 しい 言葉を使っ 1) た

慈済ものがたり

出発

末に華僑が プは三、四 毎月、 ボランティアはこの時に少し息抜き 他国や他州に行く合間、 日 台湾に帰る時期、 から 一月までの 休暇が取れ 国際 または ググル

族との を話して聞かせる人も 変わらず自分 でき、 自ら慈済の 団欒でク 病院で持病 0 活動 居住地区で慈善活動を続 IJ Ź 12 7 の薬をもらっ を加し 1 スを過ごすが、 る。 てきた経 たり 験 相

話す。 けることができるようになりました」と 中まるまるか アは以前は非常に時間にルー · 亜棋によると、ダ たが、 今で け は二つ、 て一つ ーバンの 三つ のことしか \mathcal{O} -ズで、 仕事を片づ ボランテ できな

に、心の中に \mathcal{O} 効率が 時間を有効に使えるということは仕 よくなったことであると同 「時間がない」という気持ち 時 事

> 飛び出す を蒔くチャ 病苦を受け ができ、 クを織り それ 年の は限り 始ま 気持ちに急かされ 準備を始めた。 な 止めるよう促し ンスを逃さず、 り、 が強くなっ てアフリカ大陸 あ 国際グ る生命の ル て 中で、 ているのだ。 愛のネ 1 て、 プは るか 勢いよ 0 貧困や 善の種 らだろ 「時間 ット ワ

(慈済月刊五九0期より)

35

四宝の温もり

◎文・鄭碧玲、郭家云/訳・黒川章子

36

年を合わせると三百二十歳を越えます。

面ももちろ 持ち前の心意気で

の宝、 V 1) ては大地の宝とも言える四

ぞいつもハツ

う道

に

は 通り

バ

イクと歩行者だけが通る

地

下

をリ

Ť

1

ク

ル

セ

ン

タ

^

向

カコ

と向 \mathcal{O} カン 座 V 0 ます。 って待って \mathcal{O} 張 かに二人 玉 日 が いま 英さんは 0 \mathcal{O} 高 ば 間 架 \mathcal{O} が ŋ 下 \mathcal{O}

れてい をさばいて下さるの 自分の場所に座ると作業を始めま た。玉英さんは暖暖リサイ た連彩霞さん ドアを開け、 クルセンタ おはよう!」玉英さんを遠く つも六時 紙を裂くシュ て、午前中に は笑顔 には来り 段ボ でボラン です」。 ダンボ レ で朝の挨拶を ツダ T ルと椅子を出 テ 11 イア 5 クル ル ·係 0 \mathcal{O} 十個 をし セン のまとめ L に した。 暖 P L 見 リサ タ ほ 11 ま て 0 الخ < ま け

> 7 き入 11 る楊惟 れました。 歴ださん は賞賛 な が

> > 5

38

にも しなが いてカラ お年を合わ ん、柯鴛鴦さんと蘇張雲さんです。 、ます つも 四宝と呼ばれ 玉英さん 冗談を言 打 ら、 緒に作業をしてくれる連彩霞 たりたた ア この せて平均するとちょうど八十 0 ル は い合っ 紙 バ 懸命にダン 暖暖 いる仲間に目を配ります。 ています。 と白紙に分け Δ いたりとい のような 吸リサイ て笑い ボ 分厚 声 ク ます。 ル が高 った作業を ル セ 11 四人 物 カン ほ \$ 11 Z \mathcal{O} カン 7

車 -で通勤

11 とは な

も車も に乗 W 小柄な姿は 分歩きま 元 つきながらリ \mathcal{O} は、 バ り基隆市八 早朝五 込み ス \mathcal{O} す。 中 代を節約するため 車 合 で Ť 5 \mathcal{O} う 時 \$ 中、 猪駅 流 ようど朝 1 に樹林の自宅を出 お姉 ク n に飲 ル で降 小走 セ さん格」 ります。 4 ŋ \mathcal{O} ン ター その 込ま 通勤 に道を横 後は杖 n 時 ま \mathcal{O} そうで 王英さ で 二 十 間、 て列 十五 切 る を 車

薄暗 中を < バ \mathcal{O} 11 ります。 地下 イクが警笛 玉英さん 道を歩く を鳴ら ので は念仏を唱え ンジ し L \mathcal{O} て追 灯 V が な 越 照 が 5 す 5 7

咬ま 境保全列車 7 ように気をつけます。 草 たり草 すの れたことがあ む は、「まだ大丈夫 5 これは玉英さん で の脇を歩くときは蛇 \mathcal{O} 全に打 にと心 した。 \mathcal{O} むらに潜 旅をあきら ち込 るか 配 ! し W む 7 はそこまでしなく で 5 と勇気 樹 \mathcal{O} 潑 8 で 1 きれ す。 たり 心の支えなの ましたが の枝に絡ま 12 をふ す 出 な で た姿を VI Ŕ るい 玉 わ 英 環 0

39 2016 • 3月

木曜日 後樹林に引っ越 一度 で 受も休 台湾に渡っ は はたとえ 基隆八堵に住ん Ļ -に通っ だことはないそうです。 応援することにしたのです。 \mathcal{O} 心したので、 勤勉さは年若い て来てからずっと変わ 雨が降って て 11 ました。 でいたの も通 毎週月曜日と 時に 春節から 0 で て来 中国 そ 日 る \mathcal{O}

人生の苦労が福となる

郷の中国福州まで尋ねていったのです。「三十年前一万元を払って人に頼み、故

赤く 跡形も なります。 せる時玉英さ 昔を思 両親 W 1 \mathcal{O} 出し もす 目 頭 はどうし て両 でに亡く 親 に思 ても な

40

玉英さんは 山に逃れてきた の先生に連れら 玉英さん、 の時、 九二八年に 兄とは 元 国共内戦に巻き込まれ、 0 \mathcal{O} ñ 別 姓 福 で 建省 \mathcal{O} は て海を渡 した。 劉と 場所で就学し 福州 V り、 V ま 生ま す。 台湾 れ T 学校 \mathcal{O} +た

女としてひきとられました。その時に姓製麺工場で心優しい張夫妻に出会い、養働いたり、お手伝いさんをしたりした後、

名前だ した。 働きました。 う名前にしなさい を得た彼女は、 を張と変えました。 そこのお嬢さんも ったので、 雑貨店を手伝うようにな 二十歳 仕事 よ」と言われたそう お姑さん 0 \mathcal{O} P 詩基 覚え っと落ち着 同じ玉英という 隆八 に もよ 「阿鳳とい てよ らりま 陳さ

ラス す。 を売りに行 やり、 その 彼女が育てた五 た残念な気持ち で学びま 頃は 彼女も基隆海洋学院 基隆 った り 河 で て五 人の子供は を補 戦争で学校 砂金を集め 人 たか の子供 \mathcal{O} 4 0 に 中 行けな Ĺ を学校 た 国 1) な公公 語 0 で ク

必慰められたそうです。
を引いたので、それがとても嬉しく、

慈済は から!」。 ニュ 感銘を受けたんです。何か災い 界を救いた と思うようになりました。 「私は上人さまが台湾だけでな 慈済ボ ったの て大地を護 を拾 らはじめました。 スで慈済の つも真っ先に駆け 幸せを大切に思う玉英さんは、 で、 ランティ いとおっしゃることに ってお金に替え、 道に面した古い家を拠 2 活動を知り、 て貧しい人を救いた ア の張春美さんと知 六十六歳 彼女は つけるの 寄付をする 環境保全 が の時、 空き缶 とても です 八



でも雨の日も風の日も休まず通う。(攝影/鄭碧玲)めと一緒に基隆行きの始発列車を待っている。遠く●早朝5時山佳駅のホームにて。張玉英さんが娘さ

42

した。

して資源

回収を

しました。

張春美さ

貧しさをむしろ大切に回収の長い道のり

活に し車で資源 玉 一英さん は不自 達も独立 回収をするその姿は基隆の 由なく暮ら \mathcal{O} した 主 \mathcal{O} 人はすでに亡くなり、 で、 倹約 て 1 ます。 なが 手押 ら生

を伸ばしたそうです。は徒歩で一時間以上かかる七堵にまで足角のあちこちで見かけられました。時に

だけ のです。 に暮ら う喜びを満面にたたえながら、 与えました。 は道すがら出会った貧し 彼女はそれだけでな 良 一人暮らし でね」 いことをしたい 「私は とそっと付け加えた。 ます。 お金持ちではあ 人黙々と救済を の貧し 小さい のです」。 11 11 け 人たち お米 Þ より れどできる 「誰にも言 ŋ を は ま 買 7 せ 分け 幸 11 0

早過ぎて今までに三回も交通事故に会っ 小柄な彼女はとても軽快に歩きます。

> 傷だ だけ休むと杖を二本つい 得意げ らもう杖はいらなくなり てしま ば治りも早 ボランティアをしま 言われたそうです。 ったの に言い 11 ました。 で、 ました。 ものです。 医師から三カ月は 度は足を骨折 てセ ŧ 彼女は二十日間 た。 したよ カ月も 「仕事をす ター する重 休 む 戻

彼女に、 も娘さんも した。 中で分類の てい 年齢も高 たのです。 もう くな お母さんが 0 山 事を 回収 手に 2 して た その後こ は 住 1 \mathcal{O} 出步 ください 11 で カン のまま一人で くことを心配 5 11 楊惟梃さ る息子さん セ みま \mathcal{O}

考えた 付きの した。 仕事 11 が 家に住まわ アパ あ を休みたくなかった でも二十年 迎えに訪 げ Ź, トに同居する せる 列車で通うことに 間 続け 0 は 7 \mathcal{O} に彼女は ことに きた環境保 工 \mathcal{O} び V べ な なりま た 毎 と娘 タ 日 全 \mathcal{O}

ますます健康に
 作業しながら運動もでき

を一 まだまだ若い ? で 5 ラ れ たダン ~ 人には負けて ス \sim 投げ ル こむ玉英さ の大きな塊 いません

> 給料、 紅包 彼女 0 (お年玉) を受け それが楽しみなんですよ 年間作業をして年に 0 楽 みは 取 歳 ることだそうで 末祝福会で福 度頂 け る

> > 44

なが にい きた玉英さんは、 を経験し、 みか 争 二十年前ご主人を亡く んは八堵駅の たところを慈済ボランテ 姉御肌の彼女を、 るボランティ 「鳳姉さん」 の混乱を逃れ、 ら長 台湾の経済発展と共に生きて 間 立ち直 と呼 貧し 向か ア仲間に んで セン 11 い側に住ん 肉親との 人だけ る こことが した時、 タ も寄り添 11 ます。 イアに導か 生き別 では でな できず で その 連彩 4 < ま ま 側 れ

になりました。れて、ボランティア活動に参加するよう

た。 す。 ンタ ップ い物をも に骨粗鬆症と診断され、 が 彩霞さんは回収作業をし もう二十年も はまるで \mathcal{O} カン 中で つ ては 0 分類をするように 11 \mathcal{O} けないとドクタ 一緒に作業を 妹 で、 \mathcal{O} 回収を ように その 足腰で てい P 仲 なり \emptyset るう 7 は ま て ス 重 ま な セ

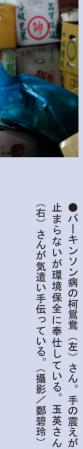
こなしが軽い 年の差が 彩霞さん 玉英さんはとても話 十二歳 人 は古風な というように。 派の二人、 人で し上 おし 性 格 手で !も違 P ベ りは 0 身 V \mathcal{O} ま

> よ いとい 笑顔 が と玉英さんは嬉しそうでした。 って でしょう。 れ るの。 顔も似 みん なが いてるん 妹 です みた

うです。 てこぼ キンソン病を患 止まらなかったり、 VI 十歳 スト から してしまうか 水を入れた 「重 最も近いそうです。 の柯鴛鴦さん、 ル V ですぐ 物 を持 0 コ て ツ 11 5 てば 耳の聞こえが に プさえ る わ ス お住ま \vdash 持 0 かります。 で手 口 9 も持 ほど悪 頭に \mathcal{O} を 11 てな 震え 使 悪 巻 は Ž V パ 11 1) セ が ま そ た な ン

三十年、環境保全ボランティアも十数年鴛鴦さんはすでに慈済会員になって





46

務め した て ることを知って、 が生じても、 際に慈済と出会い て んのです。 \tilde{O} るそうです。 その後病気 環境保全の仕事を続け 即座に 彼女は花蓮に旅 人々 定期預金を募 のため を救済 生活に して

さんの手足は上手に動かせるように見えなのです。作業をすると運動にもなるし、なのです。作業をすると運動にもなるし、

きも他の人より重労働なはずなのですかています。鴛鴦さんにとってはどんな作ませんが、とてもよく働く人だと関心し

けなくなるまで続ける

まで送迎をしています。ご長男は交通 まいで、次男の方が毎日バイクでセンタ 七十六歳の蘇張雲さんは過港路にお住

る。(攝影/葉晉宏)それでもセンターへ通ってボランティアを続けてい条張雲(右)さんは膝の痛みを抱えている。2人は蘇張雲(左)さんは骨粗鬆症で重い物は持てない。

息所 暖暖 腰か ランテ い思 事故で 度も繰り返 んをボランティ で 蘇さん自身も膝の りたので、 ようになりました。 IJ け した。 \mathcal{O} ~脊髄 サ イア ることが をして ても完治 角を借受け、 イク 長い 林博信さんが を傷 蘇さん ルセンター いたところへ 間膝 なか ア活動へと導きま \mathcal{O} できなかったの 見通し の痛みにさい んもボラ なか 当 人工関節の手術を何 自動 面 が基隆市 訪 は 回復して \mathcal{O} 慈済 ンテ 立た 生活 トイレを取 ず、 イアに通 蘇張雲さ \mathcal{O} は です なまれ、 した。 いな バ 心 ス休 ケアボ 配 が

蘇さんは上人さまにお会いしたくて、

のです。 で広げ です。 夢にまでそのお姿を見たことが まで!」と。 きればずっ 自分自身に願をかけているそうです。 できることではありませ ららつ てい Þ 上人様はとて らっつ と続けたい、 るって。 鳳姉さんも しゃるん でも志業を世界にま ŧ 同 こんよね」。 ですよ、 慎まし 往生するその じように あ 11 彼女は 簡単に 女性 るそう 「で で H

思い 紙を重ねて整理する作業です。 を受け でくくったりダンボ P り、 ター っても 蘇さん \mathcal{O} 中 5 \mathcal{O} には ボ 0 てい ラ 力 ン ルに入れたりす ます。 \mathcal{O} テ V 1 5 T その 例 な は えば 互 作 る 古 業

いますね。
とのないとのである。
とのであれば、正英さんと鴛鴦さんが手

や新聞、 に玉英さんが言い 白紙を取り出し、 はもう検査したよ。 煩雑になりやす ダン お年寄りは休みなく作業を続けます。 ボールをつぶします。 製本してあるものは ました。 カラ ٧ì 古 大丈夫!」 一印刷があ 紙 の分類作業です はバラバ 「ダン るも ラに ボ

だった回収 ぞれ帰ります ボランティアの多くは昼食を取 午後 物の分類が終わると、 が、 二、三時になって、 まだ残 0 て続 ける人 センタ 山 2 I積み てそ

> 帰り るの わ 2 です。 帰りま 7 お は 日 鼻歌が聞こえてきます。 は様は西 ようと仲 ^, 歌声 間 カン 0 主は玉 ば 呼 んを片付けて び 英さん カン 「宿 け 題終 7 で

げら て楽 列車 も基隆暖暖リサ 一の音、 がりく れ は、 しそうです。 菩薩たち てい みなく受け継 ます。 隆河 温 ね カン 0 た道路 \mathcal{O} は 1 く和やか 地球 年は クル 流 互 が れ V れ に讃 取 セ のように、 を守るとい ンター て 2 な情景が ガ え合 ても タ 11 気持ち 11 で ゴ これ · う 堅 繰り そ 今 は 広 11 日

50

震災後のネパール

歩一歩教育を再建する

イパール震災後、

慈済は百クラス以上の仮設教室を設置した。

>レーシアから工事の監督にやってきたボランティアは

2材の運輸や雨季の施工の困難、電力不足等の試練を乗り

越えてきた。

かしそれでもまだ心残りがあった……。



現在も進行中である。 ・ 〇一六年初頭、ネパール大地震から八カール大地震から八カール大地震から八カーの建設を支援した。工事はの建設を支援した。工事は

た。 進行には相当な困難が伴っ 六月から九 スは、 ほぼ雨季に び郊外にあ 八月まで、 当た 0 7 第二期工程 たが ンズの市内及 の九十七 0 ており、 工事 工期は クラ \mathcal{O}

と事務を担当した。
と事務を担当した。

組み立ては全て、カトマンります。第一段階の建設とは、不便な上に危険でもあは、不便な上に危険でもあいます。の

●慈済が建設援助した仮設教室でた。(攝影/許妙如)

季が です ズ 市 ら支援要請を受け リリス ッ ے ۔ 中 内 カン に広すぎて、 慈済ボランテ させま カン Ď な カュ 危険 0 0 から で たと李済瑯は話す て現地調査と建設工 な __ 建設す た 0 大部 が で、 雨が 間 イア 分 被 は多く ることに 以 は教育 地 地 に \mathcal{O} \bigcirc Ш あ \mathcal{O} 校長 る学 局 提供 た 事 囲 は か \mathcal{O} 雨 ス

できないことに無力を感じました」。 大な数に上り、 あ かに、 りま た。 ル 0) は公立及 その 民間 地震で 0 被災 0 コミ び私 0 ユ 立 た学校 ニテ を再建支援 \mathcal{O} は膨 -学校 \mathcal{O}

> 返ると、 残りで 力 月 \mathcal{O} 、あった。 李済瑯にと ネ パ ル 震災援助 0 てこの \mathcal{O} ことが 過程をふ n

> > 52

間単ではない仮設教室

ル あ ŋ 劣悪な学習環境で換気が悪く熱気が 大地震 など 的 、は損壊 五. では、 年 \mathcal{O} 臨時教室を建てた学校も 対 廊下 で は、 三万個以上の教室が全 を取 B テ 別の 使用不能にな 五. 0 たが、 場所を確保 日 に起きたネパ \mathcal{O} 下 竹とビニ で授業を 0 あ

後の変わりやす ンティ中学校で ●地震で校舎が壊滅、学校側は何とか授業を継続できるよう手を尽くした。 は教室不足のため、 い天気の時期には不便だった。 屋外に帆布を張って青空教室としたが、 (攝影 /蔡桂嬌) シャ



こもる空間では、子ど 響が出ることは免れな かった。

た。 済玄 つだ ら中期援助を見据えて は重点的支援項 11 ル な 旬ネ て、 教育は待 で 「緊急援助 位に 0 \mathcal{O} パ 仮設教室 中 . 期 李済 五. に \mathcal{O} 年五 到 É 段 \mathcal{O} と張 階 着 \mathcal{O} 建 月 お n

価と計 然から、 教室を建 画を受け持った。 恒久的校舎の再 時に、 ててて 雨季に入る前にできる限 L ま 0 いたかったの チー 建 につい ムは長期的観 ての いです」 ŋ 仮

住宅 よる貨物 室建設に大 この貴重な経験が意外にも今回の 中 二〇一四年、 の仮設住宅二百棟を建設 子どもたちの学習を遅らせな 建材 五回 慈済はクランタン州で被災者の \mathcal{O} 石も検討 到着時 (V) の建築規格の修正を経たが 、に役立 マレーシ 間 は でがネッ したのですが 一った。 ア 東海岸 「台: クとなり した。 湾 建設 の仮設 仮設教 いた まし 船に 洪 水

> 手本に、 とにした。 ンティアー またコ 現地ネパ ストを考え はマ] V ル で資 て、 シアの仮設 李済瑯 材 を求 らボ 8 住 るこ 宅 ラ

規模な店を見て回ると比較的 て材 は街 では値段が 李済 料を探 アの仮 - ムが直 適切な建材を入手することは、 のあちこち 郷は 液高かっ P 板) トタン屋根で 設住宅で使用 面 しまし 次 した困難の \mathcal{O} \mathcal{O} よう はネパ ホー たのですが、 た。 最初に回 ムセ ふり は降雨時 つです。 ンター たポリプ ル 返る。 では に廉価 その後 0 入手困 た大手 を 建設 初 口 7 で 口 雨音 匕 0

た どん つも必ず恩人に巡りあうことができま がとても大きくなるのでどうして 口 t なに大きく ピレン板を入手 しのです。 ても、 のような重要な時、 したか 天は った。 人々を見捨 t 木 難が 7 IJ

見つけ、 きで、 ンス 防音効果の 骨で壁には に劣らなかった。 現地 ポ \mathcal{O} ン 彼らは信頼できる請 \mathcal{O} 企 ジを加えた。 仮設教室 セメン 質 ため、 業家、 は、 トを用い エの建材 トタ チ t L こう ン板 てマ ゥ を決定 ダ にポ して建設され 負 IJ 屋 3 根 シ IJ 氏 は ンアのも ゥ \mathcal{O} 力 防 ĺ 手 タ を 引

> た。 出費として受け あるのです。 仮設教室の した。しかも国境の税関が閉まることも ンドから輸入したもの 輸入に頼らざるを得ず、その 現地メー 人件費が 建設チームが必要とする資材の ル コスト で見つけ カ | 高騰したこともあ 時期、 入 入れるほ は上昇したが では生産量が少な た資 建築労働者 で、 かな 価格は 材 か の多く った。 ため が不足 り ま 価 は 部 た

し教育は待ってはくれません。子どもたれなかったと言えば嘘になります。しか連続で、声もしゃがれてしまいました。疲率のない。「毎日折衝、話し合いの

55 2016・3月

受け ちが 室の 7 工 はと思い 一設をも 事現場 る \mathcal{O} ました」 のす を見 0 シスピ えると心 ぐそば F. が \mathcal{O} T 痛 廊 み、 下 ップ で うさせ 授業 仮設 教

加マレーシアからボランティアに参

設教室建設工事 ボランテ 1 \mathcal{O} 目途 T \dot{O} F た が ために た が 2 Ġ. ネ 0 パ て来た。 7 ル で \mathcal{O} 仮 T

たちは ント板 の接合金具だけを持 7 は 全 現地調達で T カン 5 工具 0 式と、 たの て行きまし で、 セ X

> ば被災地の もに建設を進めることでした。 こともできますから」と話し また災害の傷 仮設住宅建設 住民の 建設 た第 0) 跡から一 収入を増やすことが 0 経験が それ 任務 カン は 時的 ら被災者とと まず 豊富 こうすれ チモデ な張 逃 れ ル で

> > 56

供給 な資材 ンの接合金具を持って行ったことが 接合金具は仮設教室建設にお 7 メ だ。 ところが税関に引 \mathcal{O} 「ある時、 つだった。 シアから持っ を見つけら ネパ 0 たち て ħ V なか ル カン は くことに で つ V 適当な 0 . 7 五. た 重 あ な 1)



●李済瑯(左から2番目)とシャンティ中学の学校関係者が仮設教室建設援助について話し合う。(攝影/陳国麟)

仲間と知恵を絞 輸送に頼らなくてもよ 固定接合板を開発した。 張済玄は、 鋸でも簡単に 0 7 た。 作 そ シ よう、 ŋ Ū T 出 て カン せ 0 5 る チ 11 \mathcal{O} 骨 に 資 雛 組 A 7 型 \mathcal{O} \mathcal{O}

教育部

門、てわ

政部門に掛け

合ってようや

ま

現地ボランテ

1

T

が

税関

く税関を通過することが

きま

た。

が

カン

カン

っで

てしま

工

事の進度に影響がかし二週間の時間

出ざるを得ません

電するたび は電源がなけ ぼ毎日停電 「頻繁に起こる停電にも悩まされま 電力不足は現地の深刻な問題で、 に作業を中 した。 れば使用できな 電気ドリ 止せざるを得 ル ないため、 などの な 工 真 ほ

る必要があった。 田るため、 また雨季 に入ると工 雨 季の 前に 彼は 請負 建設 事 \mathcal{O} メー 速 \mathcal{O} 度に 速度を速 力 影 \mathcal{O} 響 8 が

だが、 つきと 越えることができた。 に感謝す V チ う る。 問 A 問題にぶ \mathcal{O} 、尽力、 工事 0 \mathcal{O} かっ 努力 初 期、 によ たことも事 品質 つ て、 0 ば 実 5

何か別の意図があるのでは?

学の あり 天下 ってくれた団体は初めてです。 を学校に寄付)ますが、 ダ さらにボランティ 現地の ン・ク が 建設支援を行ったバギス 7 仮設教室を寄贈するだけ L 人々とともに教室建設を行 てくれた団体はたくさん ル 校長は、 ア を投入して、 「お金や物資 日が暮れ ワ IJ 炎 で 大

> を続け、 やつ ンテ しない ても労働者や学生と時 11 て来た た。 1 ア んです が なかなか宿舎 のだと知ると、 自腹で台湾やマ から ね と話す。 間 \sim 帰 を惜 校長 V 0 て休 は シア W 後にボラ ŧ ŧ で作業 から うと 0

瑯は と何 本当 か 別 \mathcal{O} \mathcal{O} はこう言った。 教師 費用も 度もボラ に手助けす 教師たち \mathcal{O} 意図があ たち した家屋や被災者キャ カン かることを知ると、 は を安心させる一方、 ンテ 仮設教室の質が 「学校 ることを望ん るの イア \mathcal{O} ではない に確認した。 付近にはたくさん ンプ 高 で 、です 「慈済は何 1 、る時に があ 彼らが か? 李済 相 n

に報告 るの ます。 ます」 もボラ ラン ご自身で助けることができないなら、 テ カン そこの イアがサポ してくださ 聞きに行っ テ イアの 人たちが V てくれません 0 員ということにな こうす に行けるよう慈済 何を必要とし れば皆さん か。 ŧ 7 ボ n

持ち歩き、教室で授業する時にその中のクマール校長は、毎日ポケットに入れての計していい。

59 2016・3月

遂げ 静思 スロ 0 < 6 0 番好きな静思語は、 れる」だ。 ガンではなく、 カン を紹 0 V 介 て話をするようになった。 した り、 行動によ 家族にも慈済や 「社会の変革は 5つて成

月の 濃厚 にそれを活か 李済瑯がネパ うち、 物を積極的に受け な宗教的雰囲気である。 最も印 象深 7 ル いた。 15 入れ カン 滞 在 0 た また人 \mathcal{O} 日常生活 7 が 11 現 ハ々は 地 \mathcal{O} 力

九九 起こった後に行 0 八八年 初 8 二〇〇三年 ĸ 加 -ネシ わ n た国際災害援助 ア には た大規模な物 で華僑排斥 イラン

> は 援助 ミヤ 動を行 洋大津波 0 みじ \mathcal{O} 緊急援助に 経験 7 みとし \mathcal{O} \mathcal{O} その は、 援助 を襲 に た口調で話す。 参 兀 0 生の たサ 加 年 -後の二 ス た。 リラ 貴重な因縁だと彼 \bigcirc ク 兀 年 こう ンカ 口 末 で \mathcal{O} た災害 年には 支援活 ナル ギ K

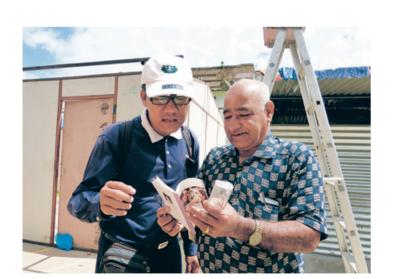
深か 死 ら執着を捨て、 0 何 \mathcal{O} 災害現場で彼 衝撃を味わ 0 だけ たの あるとい でも起こ では は、 は、 な った。 物質生活にこだわらな ŋ うことだっ 無常とはただそれに ·えます。 人生の無常、 それ しかしさらに印象 کے た。 私 は日ごろか 「無常は つかる」 生老病

ことを学ば 人と悪縁 んとの な け を結んではなりません」 付き合い n はと自 でも無常観が 分を戒め 7 11 ま

ル 0) Z 感謝

来たが 加 カとミ た三番目 彼 ル の信念は変わらない。 は、 7 0 張済玄が 回 玉 [はネパ |であ で \mathcal{O} る。 国際 慈 済 ル 過去、 災害援助に 0 にや 災害援助 「初め スリ 0 7

について話をする張済玄。(攝影/頼睿伶)室建設支援を行う。マーダブ・ゴータム学長に慈済室建設支援を行う。マーダブ・ゴータム学長に慈済を強いた。



60

えます 参加 、て話 は _ 人心 0 するだけ で が _ \mathcal{O} 0 \mathcal{O} 災害援助 できるようあ \mathcal{O} 浄化です。 因縁 では あ で を大切に ŋ は、)ません。 です らゆる方法を考 ただ再建工 から 慈済 慈済に 度 \mathcal{O}

縁を結ぶチャンスをつかんだ。に、仮設教室の建設を急ピッチで進めた。朝から晩まで働き、身体的疲労は免れないた、仮設教室の建設を急ピッチで進めた。

作ってもらい、最後のペンキ塗りも手伝と生徒たちにセメントとレンガで基礎をとなっている。

も感動し ワリ学校の教師と生徒たち ったと張済玄は強調する。 したという実感を味わ ためでは 7 こうし もら 0 なく、 た段 ともに 取 教師 り がは決し ってもらうためだ や生徒たち 工事を完成 中 て人件 \bigcirc 協 でもバギ 力に 12 しま 参加 は 削 ス

学部 ました。 のプランを理解 で説明会を行 ているかということを実感させられまし 「工事開始前、 の学生には建設に 工事の最初 仮設教室がどんなに待ち 私たちは学校に 先生と生徒たちに てもら カン ら彼ら しも参加 いま l はとても積 足を 7 望まれ 全体 運

囲み、 ショ こう 心にお茶やお菓子を勧め 物を持参して 設援助期間 すぐにビニー った時には、 張済 先生や学生たちは自 した思いやりと真心 玄は シアとの が張済玄を感動させたの コンクリー 援助に対し ネパ はとても友好的で、 資材を傷めてはなら ルシー 1 ましたが、 ボランティアたちは 間 を三回 1 ル てもオープンな態度 に二カ を敷きつめ で覆いました。 1 発 的 の 往復した。 てくれました」。 コミュ 先生たちは熱 月 に 間 であ 海外から 建 滞 な ニケー 在 ネパ る。 地 が を

で接するため、

ボランティアもやりやす

かったと彼は言う。

せん。 もの から 立場に立つ てしまうの の見方や価値観で、 の住民に は新 なのだということです」 0 がぎない はそれ 7 回 私た しま た 自分が必要とするも 向き合う時、 に悟るところもあ 玉 では なら、 ちが学ぶ 被災者は ほど多くは 1 際災害援助 がちです。 ない 実は 死の豊か 欠乏し 彼らの ベ カン でと反 を経験 きは な 彼ら 私た V 苦し たちは った。 物質に 省させ さこそ最も大 て \mathcal{O} \mathcal{O} カン \mathcal{O} 11 が カン 必要とする . ると思 ? 多す 被災者 ŧ みを推 自分たち 「被災 ここだわ 5 張済玄 うぎる ħ れ ま ま 0

63 2016・3月



【證厳法師のお諭し】

◎訳・慈願/絵・林淑女

慈済ものがたり

64

死をも恐れない

ていた。 救助隊員の姿によって体現されていた。 しかし一方で人々の愛の心が体現され 地震はあまたの家庭を粉砕した。 記されたこの菩薩の功徳は、 諸々の衆生を憐れむ心 「死をも恐れない心は 《無量義経・十功徳品》に

ことです。 ビルが倒壊して多くの死傷者を出した ひどかったのは永康区にある維冠金龍 南地区は重大な被害を受けました。最も マグニチュード六・四の地震が発生、 日 の早朝三時五十七分、高雄市美濃区で 旧正月除夜の前日、二〇一六年二月六 台

たことでしょう。 辛かったことでしょう。 負傷の災難は一秒が一日のように長く 瓦礫の下に埋もれている人たちの驚愕、 集して救難に困難をきたしていました。 たかのような突然の揺れに、夢を破られ 熟睡していた人たちは、天地が雷同 ビルの中は人口が密

> た人たちがいました。 れない家族が救助されるのを待ち焦 に必死でした。 は、 よう慎重に捜索しなければなりません。 機械を使用しなければならない時は、中 集中させ生存者を探していました。大型 倒壊寸前の建物の中に入って、全神経を しい時を過ごしていたはずの救助隊員 に閉じ込められている人を傷つけない 除夜のこの日、本来なら家族団欒の楽 救助隊員は危険を冒し、傾いて今にも 一秒をも争って生存者の命を救うの 瓦礫の傍では、生死の知 0

度に生存者のいることを期待していま 救助隊員は注意深く、空洞を見つける

65 2016・3月

も辛い したが 期待がよく分か てまた愛があるからです。 って最後の一人になるまで、行方不明者 って対面しなけ 薄れ 捜索に努め ことでした。救助隊員が必死にな ていきま 、時が経 てい つにつれその期待も次第 ればならない 0 した。 るのは、 ていますが、遺体とな 救助隊員は家族 同情心、 は、彼 そし \mathcal{O}

助活動 時に 台湾 た。 六十六歳 は あ 中部大地震や高雄の化学爆発の 週間続い り、この にも参加 0 消防団員蔡重義は、 救助に駆けつけていまし た救助活動が 度の台南地 した慈済ボラン 震では午前 段落 ティア 以 じた 前 救 兀

> はない った。 べての た。 な動静でも見つけると、誰かい 私たちは全力を尽く 嗚咽を押 人を救出できませんでした」と語 かと喜んだが、何度も失望しま し殺し て、「瓦礫 しましたが、す \mathcal{O} 間で微 るので

ました。 とに、 \mathcal{O} は怪我をしても簡単に傷 う心に感動させられます。ある救助隊員 に忍びなく、全身全霊救済に投入し 彼はどの被害者も自分の家族 「救助第一」 瓦礫の間で捜索を続け、 この「人の傷見て我痛む」とい のみでした。 口を抑えたあ 心に のよう あ て

《無量義経 十功徳品》 \mathcal{O} 中 \mathcal{O} 菩薩徳

被災者を救助しています。この危険を顧 けて、災難の発生時には第一線に立って す。救助隊員は普段から専門の訓練を受 は菩薩徳行 みず生死を度外視して衆生を救う心 行に「出生入死無怖畏想 能擔能持諸有重者」と記されていま 切法 (菩薩心)です。 得勇健想 於諸衆生生憐 壮 力士

政府 方 この か 捜索は実に七 0 と民 6 要な物を提供し、救助隊員と四方八 団欒をすて、 寒い 関 間団体 心を寄せに来た人たちが 時期に多くの救助隊員 日間に及んでい も現場に待機 第一線で の不休 まし して救助 んは家 団結 不眠 た。

> \mathcal{O} す。 して 人々 捜索の るの \mathcal{O} 至誠の愛、 結果に心 は、 台湾社会 が痛みまし 人性 0 の美に感動 愛の たも 展開 で \mathcal{O}

光と熱を発揮 慈悲と智慧が 心霊の傷をい たわ 河時 に策動すると

と報せが届き、ボランティア 舎では朝 き、皆はい いめを始めていました。被災地 地震が発生した早朝の \mathcal{O} 礼拝 ŧ のように礼拝堂で朝のお を知ら せる拍子木を叩 四時近い の朝会が終 心から続 頃、 K

67 2016・3月

を設立し わった後には、台南のテレビ回線を通じ て、台南支部がすでに救済協調センタ ている様子が見られました。

けました。 害の状況を確かめに行かなくてはと、台 南静思堂、あるいは直接被災地に駆け も被災した人もいましたが、すぐにも災 震を経験して恐怖の収まらない人、自ら 台南の慈済ボランティアも強烈な地

で被災者の家族に寄り添って慰め、温か 食事を救助隊員に提供していました。 痛み」であるがゆえに、皆は新春をお いするどころではなく、 「悲しみは衆生の悲しみ、 連日被災地 痛みは衆 生

> 舞い ました。 め、犠牲者の遺族に寄り添って慰めて ある人たちは病院へ行って被災者を見 ある人たちは斎場に 日夜交代で詰

ちに按摩や治療をしていました。 隊にも声援を送り労っていました。 物資を届け、また救済に尽力してい ボランティアはリレー どの物資を被災地へ送りました。 立して、毛布、 人医会の医師はサービスセンター 花蓮慈済本部では協調 心身疲れきっている家族や医師た 暖房器具、福慧べ 式に台南へ支援 セン タ ッドな 各地の 慈済 · る兵 に常

人生は無常、 国土は脆く危う ŧ \mathcal{O}

者の初七日が行われた日、慈済でも た台湾、台南が平安になりますようにと かりますように、犠牲者が安らかに、ま 心祈福会」を催して、人々の敬虔な願い 祈りました。 が届き、奇跡が現れ、行方不明者が見つ 愛の奉仕が必要です。二月十二日 ひとたび災難が発生すれば、 何 一安 **操性** 人も

たちは、 カ所 0 屋の損壊状況、経済的な支援の必要性に りでなく、 地震で多くの て調査をし、今後長期的な支援を必 の地域に分か 玉井、 家が損壊しました。 永康、 人が恐怖に陥ったば れ 安南、 慰問するほ 帰仁など百 慈済の人 か カン

> 要とするケー スを判別しました。

しみに我悲しむ」のいたわりの心を持っ の人たちが の傷は長期のいたわりが必要です。社会 立て直しができます。ただし見えない心 て引き続き関心を寄せるよう願って 建築物が 傾 「人の傷見て我痛み、 いたり破壊してい 人の苦 る 0

天下 - は隣人 な善美があると に愛があ のようになる h

台湾の 大地震を聞いて、多くの かつて

69

さいました。寄せ、街頭募金をして支援金を送って下寄せ、街頭募金をして支援金を送って下台湾が支援した国々の人たちが関心を

昨年ネパールで発生した大地震で、今らが最も困難な時に台湾の慈済人の温かい支援によって難関を越すことがでかました。ですから皆で集まって燈火をともし、真心を以て台湾の人たちが平安ともし、真心を以て台湾の人たちが平安

と、多くの人が義捐金を送ってきましりの苦に我苦しみ、人の痛みに我痛む」ターの患者は自分たちも貧しいですが、ターの患者は自分たちも貧しいですが、

た。アフリカ・モザンビークの住民は内た。アフリカ・モザンビークの住民は内たので、被災者のために祈り、わずかでも心のこもった家族を失う苦しみを経験し

ます。
ます。
ます。
これから見ると「布施」は金持ちだけの特権ではなく、真心があれば貧しい人の特権ではなく、真心があれば貧しい人の特権ではなく、真心があれば貧しい人の対域ではない。

残るために国外へ脱出しています。数なり、百九十万人が負傷し、人民は生きが経ちます。その間四十七万人が犠牲にシリアの内戦が起きてから五年近く

も慈済人は努力しています。うしようもできないことですが、それでとができるのでしょうか? 本当にどーが、それではないない。

シリア難民の児童は残酷な戦火の経験や、艱難辛苦な逃亡の過程の中で目を りれました。慈済はトルコにマンナハイ い学校を設立して、難民児童に学業を続けさせ、この世にも愛のあることを感じ けさせ、この世にも愛のあることを感じ

で五万七千元の義捐金を集めて遠方のをしているトルコの難民たちは、台湾元をでしている。

台湾に送ってくださいました。これが愛のエネルギーの集合です。なぜなら彼らは慈済人の身上から、奉仕できることは幅であることを理解し、人を助ける人は助けられる人より幸せであることを知ったのです。ですから教育とは愛の種子をまくことで、この機会に愛が芽を出したことは、その愛が循環したことになり実に喜ばしいことです。

善、まさに美ではありませんか。がこんなに単純であるなら、まさに謝と感動を与えてくれています。人々のおいうことに対して、語りつくせない感

71 2016・3月 慈済

な るなら、天下は一家族のようになること 中の善人に及んで、 この無形の家とは ができます。 人は貧富に限らず、ただ心中の愛を開け 始まり、そしてひいては社会全体や世界 人を入れることができると言いました。 \mathcal{O} シリア シ家であ つの家庭がお互い愛し合うことに 種族、 のジュマ教授が、天地の間は無 ŋ 国境を超越することができ 幾千、 「愛」のことで、小さ 地は遠近を問わず、 幾万、 幾億も \mathcal{O}

ひどくなっています。エチオピアでは、エルニーニョ現象が以前よりもさらに気象予報士の予告では、今年は地球の

件に認定しました。 はジカウィルスを世界緊急公共衛生案 出ています。 ある国では洪水による農作物の被害が が降らず湖 て、ボリビアのポオポ湖は ーの地域 0 \mathcal{O} 人々が飢餓の苦しみに遭 世界衛生組織(WH 水は蒸発し ています。 高温 0 上に雨 0)で 。また 0

72

は人禍を造成します。皆が真心を以って四大不調は天災を造成し、人心の不調

警戒心を高め、生活と心霊が軌道から外れないことを願っています。 人心の調和がとれて、人々が平安にっています。 人心の調がることができるのです。

喜びは免れられないことですが、もしもす。ですが初心を忘れてはなりません。「一年の計は年の初めにあり」と言います。

日がうららかな春のようになります。春を心に留めおいておけるなら、心は毎春を心に留めおいておけるなら、心は毎

この世は修行の道場ですから、無論順 この世は修行の道場ですから、無論順 で、心に感謝をこめるのです。 かりに過 世でさまざまな障害となるので、この世でただちにその借りを返さなければな りません。

たかと反省するのです。時間を善用しての始まりに昨日行ったことが正しかっ「一日の計は早朝にあり」です。毎日

 73
 2016・3月

 慈済ものがたり

です。

あったら速やかに修正し精進することいたかと自問し、もしも怠惰な気持ちが

時を無駄に過ごしていると、無明を取れたり道心の妨げになって慧命が腐敗になり道心の妨げになって慧命が腐敗してしまいます。目覚めのない人生は心怠惰、煩悩を治すには「四修」に励むしかありません。あます所なく修め、長時間修め、間断なく修め、尊重して修める四修があります。勇猛果敢に精進し一る四修があります。勇な果敢に精進し一る四修があります。勇なとも忘ることなく、道心をもち続けるなら、修行は進歩します。無明を取けるなら、修行は進歩します。無明を取りとします。無明を取りとします。無明を取りとします。無明を取りとします。無明を取りとします。無明を取りといると、無明にぼいると、無明にぼいると、無明を取りといると、無明を取りといると、無明を取りとします。

ます。

で造福することによって慧命が成長しらなければ、福慧共に修められ、この世り除いて、学んだことを尊び、散漫にな

74

皆さんの一層の精進を期待していま

【無償の奉仕】

■静思語

する。 返りを求める奉仕は煩悩の元となって。 喜んで行う布施でなければ功



75 2016・3月 慈済ものがたり

柔軟であるほど力強くなれる

真に幸福といえる 貧乏は恥かしくない らめないと高麗 慈善ケアの道は容易なことではない 紅 は自分に言 今ある幸せを大切にしてこそ 11 聞 か せて が いる。 決して



プロフィール: 1962年生まれ。1994年慈済委員に 認証される。

訪問ケア経歴:25年 **訪問ケアの秘訣**:自分の根気を育て、静かに対象者が自分 の気持ちを打ち明けるタイミングを待つ。人を助ける機会 を一つたりとも逃さない。

「私の小さい時は少しも楽しいことがあ ますが、生まれも育ちも瑞芳九份の人で、 黒では 紅は、 よく原住民族と間違えられ っきりした目鼻立ち の高

りませんでした」と言います。

も の は鍛えられて足腰が丈夫です。 学校の児童は、 か向かい側に基隆山が望める高台の街で 九份は近海に臨む山の中腹にあ この階段のおかげで九份の子供たち 階段を上らねばなりません。 麗紅の実家はその の道路から家に帰る時は二百段 家へ戻って昼食をとりま 「七番坑」にあり ŋ 九份小 遥

> 呼ばれ、 出て夜遅くまで仕事をしていました。 に造られた石段があります。 は坑夫で、毎日夜の明けきらぬ中に家を の金鉱坑夫の出 入りの 麗紅の父親 ため

しました。 歳の時、 でないことを願 た話を日常茶飯 って、ほとんどの人は石炭の坑夫に転職 九七〇年代に量が少なくなり閉山とな 一時金鉱の採掘は盛んでしたが とうとう麗紅の父が負傷しまし 当時は誰々が負傷したといっ っていました。 のように聞かされ、 ですが、七 父親

方なく家を出て淡水のホテルで働き、 家計は母 の肩に \mathcal{O} L カン カン り、 母 は致 暇

実家の近くの金山寺は「七番坑路級」と

慈済ものがたり 77 2016 • 3月 76

た。 麗紅は、 までしなけ あ そのため小学校に上が ると屋台の 五人兄弟の世話から食事、 ればなりません 多に帰っ 手伝 てこら い をし んでした。 0 て支送り たば えませ カン りの で

所の く大きくなっ 家の仕事で忙しく勉強する暇はなく、 た麗紅の心は傷つき、 りでした。 「お母さんは を抑えていました。 人に聞かれる度、 て母と暮らしたい つ帰ってくるの? 卑屈感とプレ 母の愛に飢えて 放課後帰 と願うば 0 ·」 と 近 ても ッシ 早

えることがなかった、今では純朴な九份現実の世界ではただ前を向いて振りか

ましたと言います。の思い出も、幼い頃の思い出はみな忘

人を傷つけると自分も傷つく

その時 年で父に呼び た。 \mathcal{O} 十三元で、 手が必要だったのです。 ^ 毎日 行 学校卒業後は進学をあきら I. \mathcal{O} 場 9 日母が作っ 思い て一緒に暮らすようにな 母との 働 出が忘れ 戻されました。 きに行きました。 生活は楽 てくれる弁当を持っ られません しく、 実家は 月給は 今でも ŋ が、 ŧ 母 7 0

十七歳の時、瑞芳の製衣工場に勤め、複

番号が も習得 などに ら組長に昇格 雑なミシ んでした。 小 人を抱える責任者になりまし 小卒でし 0 つい ょ しました。 検査過程を熟知し、 ンの 0 て針の たが、 て V て、 V 十九歳の時に 大小が異なることなど 自分で英語を勉強 方を覚え 間違 かい部分には英語 11 は許 て、 特殊な縫い 作業員 た。 され は 百人 学歴 ま 方 7 \mathcal{O}

費することは、 二十五元 富と結婚し 二十歳に カン り、 \mathcal{O} 出勤のためのバ ました。 なる前に金瓜 考えもしませんでした。 V 、生活で、 家の П 石 ス賃以外 カン 夫婦 ンが ら来た楊添 は 重 _ < \mathcal{O}

> て義母 一人で持 で何 洋裁店を開 ンを して でも持 時 買 さまざまな仕 \mathcal{O} A を売 \mathcal{O} でく うい V, 後リ K 心 残ってい 泊 0 二人の子供の面 を傷 きまし れるの ŋ 0 2 スト П 7 て上が 調 た 1 にきてい - ラに遭 で つけたたことが カン り、 .ます。 ですか 事で貯め なくても」 た。 私 店でバ 5 なけれ が 家は三階 る義母が ? 運ば イトす 町 倒を見な たお金でミシ と 口 がばな なけ と言ったと でア 12 「あ 今でも 答え んなど ŋ あ れ ませ るの がら ば んた ス 誰 ク

訪問ケアで多くを学ぶ

外に、 の長 年に慈済委員の認証を受け 月会員 が期ケ 九 九 ボランテ \mathcal{O} 家庭を訪問 T 年に慈済に加 動 1 ŧ ア 参加 とし て会費を集める以 て貧困 入 ま しま 『や病の た。 九 九 兀

にきて ンテ お年寄り 人たちの世話をしていました。 は台北 VI アたちに貧困者の スが通っ ました。 や病に苦しみ医療を受けら 雙渓などを回 0 古参委員が 7 訪問ケア ない 訪問 0 て、 0 は徒歩で、 範囲 ケア 基隆 寄る辺 は 0 0 指導 Щ ボ な を ラ

> ばあ した。 ツド てくる弁当を何度かに分けて食 害が ざるん も忘れ に ムに入居 座 0 \mathcal{O} る曽お たきり ことです。 5 れ ても頑として動 な ばあ で夫が二 VI ケ ざるん 両 目 ス 日に は、 は が見えず 基隆の ベ 一度持 カン 夫が老人 ず、 7 曽 11 ま 0 ベ

た匂 訪問 っました。 ボランテ や虫などに するとき、 \mathcal{O} が あ 掃や さん てきます。 訪問ケアを終えて帰宅し、 1 T ,噛ま おば たち \mathcal{O} 家に着く前 体に が れ あ は さん 三日 た お よう ば ところどころネ \mathcal{O} 毎 カン あ 体 に 6 さ な傷痕があ . を洗 B W 0 \mathcal{O} \mathcal{O} 腐 てき 家 ま 0





腐っ か喉を通りませ た冷た ご飯を食べ V) W 飯を思い て でした。 11 . る時、 出 して、 お ば あ ざるん な か \mathcal{O}

さん じ老人ホ そ つて、 の後、 0 でした。 いろいろなことを学びました。 おば A 以前 おばあさんをケアした経験 入居し あ さん と変わることは ま は したが お ľ 11 さ あ おば W りま لح 同

れ 姿。 9 い家族は高麗紅のボランティア活動の熱心な後ろ盾●2004年に兵役中の長男を面会に訪れた。温か 深く影響を及ぼしている。(右の写真提供/高麗紅) なっている。 夫の楊添富は父のように支えてくれ、 年に夫婦で慈済の認証を受けた喜びの晴 (左の写真提供/高麗紅)

81 2016 • 3月

事んだ。事を握って「あなたは心の優しい娘だ」と言っての手を握って「あなたは心の優しい娘だ」と言っておばあさんを面会に訪れた時、おばあさんは高麗紅ばあさんを訪問し世話をした。老人ホームに入ったばあさんを訪問し世話をした。老人ホームでは、曽おり基隆で行った慈善ケアの初期のケースでは、曽お

いということです。 く相手の物差しに合わせなくてはならなお年寄りと話す時は、自分の物差しでな

恨みを感謝に代えて

とでは 慈善の あり 雑草の生えた基隆河 た ませんでした。 8 に 行う訪問ケ 住所 \mathcal{O} アは容易なこ \mathcal{O} も電気も 下 に住



でした。 に 立 よう な ス 0 阿華は、 7 の彼にとっては安心できる ち止まっていられませんが、 な寒さで、 夏は蚊に噛まれ、冬は骨まで凍る ました。 破れたマ 正常な人なら一分もそこ ツ -と布団 が 全財産 ホ A

とす は 口を開けると異臭がしました。 $\frac{-}{\bigcirc}$ つきりせず、 脱癌で ぐに視察に行きまし なると、 \Box を大きく開けられない 〇四年四月にこ べっとりと痰や唾液が したが 麗紅 話しかけたことに首を振 は四 治療を受け \mathcal{O} 人 た。 \mathcal{O} ケ ボラン 0 彼は末期 ス ねば ておらず、 周り で、 0 ティ 受け 話が りつ の地 \mathcal{O} T 持

って答えるだけでした。

ず、仕方なくまた橋の下に戻りました。 間 \mathcal{O} ことなく、 口 かし彼は残り少ない自分の命を心配する その後、 ŧ 心配をし カン \mathcal{O} 化学治療を受けましたが、 し家族の同意がないので入院でき なく再発して多量に出血しました。 ボランティア てい 別れた妻や息子、 ました。 の世話で週に五 老い 退院して · た 母

合っ 絡す ボランテ て売り飛ばし、 てい えると、 · た時、 0 「家族で遺産相続 と三番目の イアたちは家族を探す 勝手に自分の 弟には一 姉を探 銭もあげなか 12 名義に変更 9 し出して連 11 て話 た 8 奔

今では 華の 日々を過ごしてい 0 妻は \mathcal{O} 障害者生活保護の 再 という答えが 今さら治療費 て、 いました。 わず は 返 な 途絶え、 2 てきた。 て か な お 金 ŧ て は

げてく さん あろうと、 たちを傷 姉にボランティ は 仕事 の気持ち 0 のことは があ が残らな て れませんか。 つけた弟さんの過去を忘れて るあなた 私たちは喜んで臨終 って忙しい はよく分かりますが 知りた アたちは ように努力し の弟を助け、 たとえ過去は くあ のですよ」 臆せず、 り ませ て 0 はどうで 安ら と言 いる 「 お 姉 ん。 貴方 カン 4 あ う 私

> れま らい か とお願 . で遺憾 した。 0 ま 小 な のな 7 あ な 日 11 ように たは とうとう Þ を少し 肉親 してあ 一受け でも で 病苦が 入れ げて下さ よう。 てく 和

四十 は阿 寄り に頼 たが た後に麗紅たちが家に帰っ です。 ·四歳 華をすぐに 0 0 阿華は苦痛を訴 三時 七 7 \mathcal{O} 時 姉 おり栄養不 ボランティアたち が阿華に病気はどうか 間後姉と姉の夫が 阿華はまるで六十を過ぎた年 入院させ、 \mathcal{O} え、 で 良だと答えまし 会う 今は流動 たの 約 一日中奔走 P \mathcal{O} 束 は夜遅く 勧めで姉 0 を 食だけ ~と聞 と現れ

いことでした。

麗紅 仕事を探し て過ごし きました。 たら、 が 'n たちに感謝 なりました。 1 紅たちの勧め てあ まし 心 て に弟に会うよう りがとうござい たが、 て社会や皆の恩 弟 0 健康が回復したら真 病気 くところで 告別式 二〇〇四年六月半ば で、 て、 べも死も 「弟の 前妻と息子も \mathcal{O} した」 知らず 勧め ました。 に報 目 ことを知らせ てく 姉 V たち る 面 のだ れ 目 見 な 方 は

満足だったことでしょう。 まれ たち 7 安ら \mathcal{O} 努 か 力 iz \mathcal{O} 甲 この世を離れ -斐が つて、 た 阿華

> つの をして かると専門家を訪 来」とい 二十年来、無数の貧困者、 る 生命 花 ます。 紅 は は言 V る自 \mathcal{O} _ 彼女は います。 奥深さを感じま う 一 0 の世界、 分の 句 が好き ね、 性質は、 《法華経》 困難な _ 熱心に 0 で、 L 0 お節 ケ 病 た。 そ 葉は \mathcal{O} 意見を聞 \mathcal{O} 中の 介好 \mathcal{O} ス にぶ _ \mathcal{O} 人の 後 きだ 世 \sim 11

投入できる らこそと、 く支えてく 女が 全身全霊でボランテ 家族に感謝 \mathcal{O} れる夫と二人の ţ 時に は父 て います。 息子が \mathcal{O} よう 1 T Œ 活 力 る 動 強

サンディから三年後

86



◎文・周芳苑/訳・翁俊彬

被 活 た は 災 動 災 年 11 を 難 1) 前 た 行 ケ 世 注 全 帯 ま 目 ン 世 界 は た。 必要 サ 0 慈済 現 ン な デ 地 ボ Y 1 きに 行 かい ラ き、 ŧ ン 支援 た テ 支援 Ġ 1 P を

7 今 度 は 彼 L が 一愛を伝 Ž 7 1) き

ま H

せ

机

た

大愛を忘

机

ることは

あ

ます

ます。 込め を頂 ます は今でも多く たことを嬉 何 、ます。 が IJ t た感謝の気持ちが 切手が 求め \mathcal{O} 会員になった人 7 慈済 よう 11 ・ます。 ず な愛に に奉仕 同封され の被災者達 米国 く思うとともにまた驚 手紙の $\overline{\mathcal{O}}$ 溢 = てい たボ E れ ユ 1 込 た V 行 か カン \otimes 、ます。 お返 ラ ることも 間 6 5 \exists 6 感謝 れ テ は ク 数年前 真 支 をも 7 が 1 \mathcal{O} 手 部 あ T 1) 達 ま を 紙 7 n

与えました。 二〇一二年 デ 1 はア 被災後すぐに冬の寒波に見 メ 月二十 IJ カ東部に 八 旦 重大な損害を IJ

> 炊き 米ド 上る ンテ れて 被災 舞わ 力 衣 合計 人者達は り三百 ル 出 大型物 1 1 れ を超す ・まし 現物 を配 を配 T で約 を 電 Iから 資配付 引 さら 付 付 行 万と 総動 た。 金額 き換 11 万六千世帯に対 六百ド ま ま ガ 員 版を援助 えカ を行 苦 ス ユ で た。 た。 < \mathcal{O} 災害状況を調査 供 ル \exists V しました。 に給が停[・] _ まし K 貧 \mathcal{O} その後三十回 状況に追 年 を配付 現物引き換え ク た。 連続で冬用 \mathcal{O} VI 世 慈済ボラ 止 帯 さ しま 、 込 ま を訪 世帯 千万 れ

移民も 被災者に 11 は貧し れば、 高級住宅地に住ん 11 生活を送る不法 で VI 在

 \mathcal{O}

慈済ものがたり 87 2016 • 3月

Z - は速や の心を温めました。 財 福な世 産が 帯も あるかに関係 か 現金と同価値 に各被災世帯に届け あ りまし なく、 のデビット 災難はどれ 平等にや カ

なた方は本当によい 無条件で手を差 デ れました。 リブン夫妻は現在ペン 小切手を同封 まし は私や友人、 ています。 たが、 手紙には、 し伸べ 慈済のボランテ した感謝 被災した年の十二月 団体です」 てく 近所 「ハリケー れま シル の家や建物 の手紙を送 と書い こした。 イアが ア あ を



(撮影/林晉成)

くさんありますが、あの時、初めて慈済くさんありますが、あの時、初めて慈済くさんありますが、あの時、初めて慈済くさんありますが、あの時、初めて慈済

気持ち きまし も援助を必要として つまでも忘れは た。 名前 今年もまたクリス を込めて寄付をし とても嬉 今は他の を聞 V V しません。 た皆は、 です」 いるときに援助を頂 人を助ける機会が て 7 と書 慈済 くれたの ス前に感謝 私たちが最 1 \mathcal{O} てあ で で V)

きま がリ グア 1) ました。 年の夏に \bigcirc -ルさん た。 ランド 五. 「姉は生前、 亡くなったことがと記され その手紙 年 に代わ -に住 \dot{O} 感謝 ts. 12 祭が 0 IJ て書 は、 慈済のことを大変 過ぎた ル さん IJ た手紙が届 ル \mathcal{O} さん 妹さん 口 7 が

> なっ 褒め あります。 く生きてい ていた 7 1 ま に違 たら、 した。 11 ありません」と書 必ず忠実な寄付会員に 彼女がもう 7

んは テ 災 八十歳近くで、 し借金を抱えてしまい デ ア てく ズに住 イから二年後、 に感謝するためと、 れました。 んでいるオサリ ハリケーン・サ <u>二</u> 十 ド ました。 ンデ リケ ル \mathcal{O} ボ Z

けてさらに くことでしょう。 発され V 、愛の た 多くの被害者 力を生み出 つ一つの善意は Ļ \mathcal{O} これ 心を温め 限 カコ らも続 V) 7 な <



ムームーの宗教と大概

花蓮・楊玉梅

もしも愛が宗教と種族の違いを超越することができるなら、二〇一五年に私たちが花蓮県鳳林鎮萬栄村で見たことが証明できる。この村に住む敬虔なカトリック教徒でタロコ族の彼女は、大地の守護者、環境保全ボランティアの楊玉梅である。集落の人たちは彼女を「ムームー」と呼んでいる。目上の人に対する尊称でレーションをいる。まないよう意味だ。

七十九歳のムームーは、かつて慈済基





楊玉梅●



要とする人たちの役に立ちたいためであった。 たペットボトルは回収して毛布に製造し、被災者を救済していることを知ると、 金会から長期に亘る援助とケアを受けていた。 いたが、慈済ボランティアが環境保全をしているのは大地を護るためだと知った。ま は積極的に回収して慈済に持って行った。慈済に感謝し、 彼女は回収できる物を拾って売って 助けを必

を見て「来てくれてよかった。そこに回収物があります」と指さす。 両目は裏庭の回収物を心配そうにじっと見ている。 毎日のように一人家の中に座って、右手で杖を持ち左手で十字架の数珠を持って、 一心にボランティアが来るのを待っていたのだ。 一年前に中風を患って行動がま ボランティアが来たの

環境保全を話して福音を伝える

ーの夫は四年前に亡くなった。 生前十三年も病の床に臥せっていても、

94

度の 0 が 試 慈愛精神を普段 な にで家計 練を迎えた。 カン 0 は 持 彼 女 の生活で発揮 L なが \mathcal{O} 細 5 心 0 看護が 環境保全の してきたが、 あ 0 たからだ 仕事と礼 思い もよら 拝は欠かさず 0 た。 ずー 当時 年前 は É 夫 V 0 に 看病 中 た。 風 彼女は 0 を患う再 カン た わ

なくて 隣近所の 資源回収をしながら環境保全の 同じ病を患う人たちにとっ ルを踏みつぶす時も、 はならない、 て物を回 人たちが、 収してい 回収物を集めるのもリハ あまり た。 痛い かずに休 今は環境保全の て励ましになっている。 のを我慢 理念を宣伝 むように勧めて て筋肉を伸ばす。 ビリと思って、 願いを放棄せずに、 てい る。 ŧ 中風になる前は 物を取る時 痛け その意志の ħ ば 電動 痛 B 11 集落の 強さは、 車椅子に乗 空 ほ $\overline{\mathcal{O}}$ F, \sim 隅 ツ カン Þ Z

を発揮 は慈済 分け隔てなく、 することができると進めてい のことを説明 は環境保全に励むだけ ただ愛を唱えているだけです。 して、 回収した売り上げを慈済に献金す でなく、 る。 断る人には反撥せず、 皆に善行を進め 人の 助けが 7 必要な人に私たち ればさらに大きな能力 「慈済 11 る。 \mathcal{O} お 人助 金 \mathcal{O} け あ は はし 宗教



てあげ なけ れ ば なりません」 と言 0 1

愛は宗教種族を超越する

天主様。 に祈 て住む家のな し拘泥 私の体を喜ん 7 くなります た。「人としてこの世に生を受けたからに しない 捧げる。 ように、 時期を乗り は しも私が必要でしたら で差 毎 彼女は裕福で 日 人を自 「この体を創造して下さ \mathcal{O} もしも必要でな ように あげます」 越えられ 分の家に 1 は 工 住まわ るように助 な ス この が、 かったら 生死に対 かせてあ 体が カン 0 ス け 0

●楊玉梅●

は有意義なことをするべきです。 いる小柄なムー の広い博愛精神に感動した。

降り 合って平和に中で共に暮らすことができますようにとお祈りしています」とムー に向かっ マリア が言った言葉をあらためて思い出した。 ある日私たちは 「お祈りの度に、 して霞がか て杖を頼りに直立して頭を垂れ、 の銅像があ かり、 ムー った。 世界に災難が起こりませんように、人々がお互いに親しみ愛し 私たちは静寂の中に包まれていた。 私たちがム と一緒に、 集落の ムー 両手を合わせて祈っていた。 の手を引いて浮橋を渡 山合にある湖に行 ムー くと、 ムー った時、 は聖母マリア この姿に私 \mathcal{O} 中 小雨が

族は異なっていて かで助けを必要としている人がいれば、 台湾原住民族でカソリック教徒と仏教慈善団体。 によって互いに強い信頼の絆で結ばれている。 大地の保護、 衆生が苦しんでいるのを憐れむ心は すぐそこへ駆けつけて甘露を注いでいる。 彼らは 「愛」 \mathcal{O} 信仰する宗教や種 因縁によっ 同じ。 7



2016・3月



純粋な愛を取り戻す

真心の愛を以て奉仕しよう 美と善の心を以 て良能を発揮

に、 実に基づいて真実の気持ちで時々刻々 の中の衆生のために尽くすことです」 柯文哲・台北市長は上人との朝食の 「ボランティア精神というのは、 ボランティアについて話し合いまし 誠正信

◎ 文 釋徳仇 /訳・心嫈

た。

なのです」と言われました。 刻々他人に奉仕することを志し、全力を尽くして取り組むこと でもなければ、一時的に行う活動でもありません。それは時々 上人は、「ボランティアとは、興味をひかれたからすること

底させるため、 奉仕し、無私の愛を国内外に広めていくのです。 の質をも一段と向上させたのです。 慈済ボランティアのように、長年にわたって世界の至る所で 長い間資源回収を地域で行いながら、 町内の環境を整えただけではなく、 環境保全の理念を徹 台湾において 人々の生活

うに導きましょう」 った方がよいでしょう。その理念を人々の生活に根を下ろすよ 「環境保全の理念を伝え知らせるためには、 り各地域の町内会で環境保全についての教育をしっ イベ ント かり行 -をする

2016・3月





になり、 やって見せるのです。 家庭に説明をするだけではなく、 イアと手を組んで、資源回収の大切さやゴミ分類に また、上人は次の例をあげました。 ゴミの量も大幅に減りました。 現在、屏東市の資源回収率が右肩上がり また、 屏東市役所は慈済ボラン 決まった拠点で実際に ついて各

きれいになったのです。これこそがボランティアの精神だと言 保全の理念とリサイクルのよい習慣を培ったうえに、町全体も 間をかけて、町内の人々を引率してきました。 えましょう」 「ボランティアは汚いことや悪臭を気にせず、 このことが環境 誠意を以

善を行い、苦しみから脱する

新店静思堂での展示会を企画するチー

ムと談話しました。上

人は、 るのです」 いて、寛仁で清らかな心を以て苦しむ人々に手を差し伸べて 「世の中には実に苦難が多いです。 幸い 人間菩薩も大勢

大切だからなのです。 堂で展示会を行うのも人間の美と善を伝達するのがもっとも 人間の本質にある純粋な愛を取り戻したいものです」 「善や悪、清浄と混濁とが混在するのがこの世 道理を深く考えるように人々を導いて、 の中です。

る鑑賞のため の美と善良な面を示すことなのです」と上人は強調されまし 「現在各地の慈済拠点で芸術品を展示したその意図は、 の芸術品ではなく、 内容が豊富で人間として真実

で成り遂げ、 慈済の道場は、 生気に満ちて人情があふれる場所です。 ただの建物ではなく、 全て真心を込め た情熱

ネット張りが得意なボランティアの曾国豊さんと談話しま





世』という修行の宗旨のためです」と諭されました。 で生涯の教育です。 「この世において、 慈済が自分の宗門を設けたの 宗教の価値とは人生の宗旨 ŧ

善の種をしっかりと蒔き、 る難民に一連の手続きなどを手伝うようにするのです。 のボランティアは、現地の政府と手を組んで学校を設立しま 済ボランティアは、難民たちに生活を援助し、医療を必要とす 上人は そして、 避難して来た子供たちが学校で教育を受けて、子供の心に 「慈済の宗旨とは、 シリア難民の支援を例にあげました。 怨恨をなくすように努めました。 世の中の人々に、 そして世の ヨルダン トルコ 中の \mathcal{O}

と諭されました。 むに 害をのぞき、 .奉仕することです。 善を行って人々を苦しみから救うことです」 慈済宗門の精神とは、 慈悲の

生命を大いに活用しよう

まされました。 全な身体を持っていても意味がないのです」と負傷者たちを励 りません。 なければなりません。 皮膚を損傷したため以前の自分とは違う容姿の変化に直面 とその家族が慈済関渡園区に来ました。火傷を負った若者は 八仙楽園プ そうでなければ、 心が美しければ、物事の見る目もきれいになります ル の粉塵爆発事故により火傷を負った人たち 心の働きも不健康になります。 上人は、「傷痕のため気を落としてはな たとえ健

活用できるのです。自分が体験した悲惨な出来事を人々に話し をしてください。「辛い快復期間を耐えてゆけば、 頑張ってください。 ハビリの苦痛に屈せずじっと辛抱してやり遂げるように これからの命を生かして、人を利すること 命を大いに

之衲履足跡



て人を救うなら、これこそが価値のあるもっとも美しい人生なの

生を必ず大切に生かして、心身とも快復できたら、美と善の心を も体得できたはずです。「大きな災難に遭って、生き残された人 じたことでしょう。そして世の中の愛と温もりが満ちていること えます。皆がこのような体験をしてきたからには、身に沁みて感 この世には、常にさまざまな思いがけない怪我や病気が起こり

に向き合うことができ、 これから自分の人生が幸運になるか、それとも不運になるのか 上人はこのように語って若者たちを励まされました。 一念によるものです。「その思いが前向きに変れれば、 希望ある人生が開けてくるのです」

以て自分の良能を発揮するように」

慈済大事記一、 二月

0 1 27

◎ヨル

◎台中市太平区のプラスチック製造工場で26日夜、 ンティアは見舞いに出向き、 4棟の工場が焼失したが、幸いにもけが人はなかった。 緊急見舞金と《静思語》を届けた。 大火災が発生し 翌日、慈済ボラ

ダン領内のシリア難民児童ラナは避難中に空爆の影響で聴力が

0 2 • 0 4	0 1 • 3 1	0 1 • 3 0	0 1 • 2 8	
対する注意事項が討論された。41人が参加した。訪問対象と奉仕内容、奉仕に関する倫理の3項目について、独居老人に慈済台北中山支部で訪問個別案件に関する月1回の討論会が行われた。	民集落で漢方の施療を行った。 ○慈済カナダ支部とバンクーバー国際漢方医学院は初めてミソン先住市の市長も市政府職員を伴って配付活動に参加した。 の貧困家庭の児童にカバンと鉛筆、ノートなどの学用品を配付した。当のグアテマラのボランティアはサンタルシア・ウタトラン市で173人	クなどで被災者に見舞金を届けた。われ、数多くの家屋が損壊した。慈済ボランティアは即日、タマンメラわれ、数多くの家屋が損壊した。慈済ボランティアは即日、タマンメラ29日、マレーシア、マラッカのドリアントンガル地区が暴風雨に見舞	 ○ 「2016年1月28日まで、合計235回催され、約173000人がのための無料散髪を行うとともに、文房具とカバン、淨水器などの物資を配付した。 ○ 「2015年慈済地域年末祝福感恩会」は「大愛の道を宇宙に広め、を配付した。 ◇ 「2016年1月28日まで、合計235回催され、約17300人が参加した。 	会を開くとともに、空港へ見送りに行った。

2016・3月

107

損傷し、

しゃべることができなくなった。

育センターでの教育費が提供された。

ィアの協力により聴力の検査と補聴器の取りつけを行うと共に、

に。2015年ラナ母子はカナダへの総器の取りつけを行うと共に、特別教のた。2014年ヨルダンボランテ

移住申請が受け入れられ、この日、慈済ボランティアは母子の歓送祝福

化、帰仁、関廟、龍崎などの地区の被災者に證厳法師と全世界の慈	
ボランティアは大規模な訪問経路を計画し、永康、玉井、安南、	
る家庭訪問」と題した見舞い活動を展開する。台湾全土の家庭訪	0 2 • 1 0
した。慈済基金会は2月10日から13日まで「心を安らかにす	
台湾南部大地震では多数の死傷者が出たほか、数多くの家屋が損	
線を通じて同時に行われ、台湾南部地震の被災者のために祈った。	
17カ国と地域の345の地域道場で延べ52692人がネット回	0
日(旧正月8日)まで「《法華経》新年読書会」が行われた。世	2)
「2016年慈済地域道場新年活動」で8日(旧正月1日)から1	
漢方と心理相談、リハビリなどの施療が行われた。	
た。13日までに台中、花蓮、台北の各慈済病院の医療人員も加わり、	
被災地を支援した。2月6日には被災地に多くの医療奉仕拠点を設置し	

0 6 たら き出 ンテ テ 慈済基金会は大林慈済病院と南区慈済人医会と共に台湾南部大地震 大証券会社と自動車修理工場に奉仕拠点を置き、 台湾南部大地震は台南市永康、 と総指揮センター 基金会は 屋 2 \mathcal{O} 明 直 0 の倒損壊、 イアが病院と葬儀場で見舞金を配付するとともに、 した。 \mathcal{O} 0 下 や毛布、 は情報に従っ 3 人を超える人の安否が気遣われた。 型地震が起きた。 時 5 7 5 時 3 0 慈済基金会は重大被災地区の維冠金龍 けが人や死者が出ているとの情報がある。 福慧ベッド及び医療用品などの物資の配付を行った。 分に高雄市美濃区を震源地とする を立ち上げた。 分に台南静思堂と花蓮静思精舎に災害協調センター て調査に向かい 台南市永康区維冠金龍 玉井、 帰仁などの地 随時、 新化、 災害状況を報告した。 5 7 7 7 区に ・ンショ 0 グ シ 0 重大な被害をも 台南慈済ボラン 玉井などでも家 人を超えるボラ 彐 チ 5 ン横にある元 ン ユ \mathcal{O} が)拠点で炊 倒 F. 6 慈済 \mathcal{O}

0

2016・3月

起工式を行った。	
台東県知事、林碧玉慈済基金会林碧玉副総執行長及び9校の校長先生が	
式が行われ、教育部義務教育及び入学前教育署の黄子騰署長と黄健庭・	
の校舎を建て替えることになった。2月22日、復興小学校で合同起工) 2 •
校、知本中学校、関山中学校、康楽小学校、復興小学校、鹿野小学校等	
慈済基金会が花蓮、台東地域の防災工程を支援するため、台東桃源中学	
ボランティアら30人が代表して起工式を行った。	
れ、花蓮県政府教育処の劉美珍処長と慈済基金会林碧玉副総執行長及び	
て替えることになった。2月19日、明義小学校で合同起工式が行わ	0 2 • 1 9
風中学校、中原小学校、佳民小学校、明義小学校の6つの学校校舎を建	
災害防止のために、慈済基金会が花蓮県の玉里中学校、化仁中学校、国	
大地震に於ける災害緊急支援はここで一段落した。	
-	

が安心して学校に戻れるよう、玉井小学校の校庭を掃除した。台湾南部共に貴重品を取りに中に入った。玉井区のボランティアは当地区の児童仁区の幸福マンションが取り壊される前、慈済ボランティアは被災者と救助人員が維冠金龍マンションで最後の遭難者を見つけた。その日、帰	0 2 · 1 4
世で600人が参加した。 地で「愛で善念を集結し、住民の心を安める」と題した安心祈福会 場で「愛で善念を集結し、住民の心を安める」と題した安心祈福会 を催し、日夜救助に当たってきた捜索隊員に感謝すると共に被災者 を確し、日夜救助に当たってきた捜索隊員に感謝すると共に被災者	0 2 • 1 1
った。 の損壊状況に関心を寄せた。実際に見舞った戸数は1444戸に上が指導がランティアからの見舞いの言葉と見舞金を届けると共に、家屋	

1112016・3月整済ものがたり110



訳・済運 絵

(清らかな智慧)・蔡志忠/彩色・

ではありません

がっているものを分割

してしまうも

高い壁のような感じを受けた宗教者が 神聖で近寄り難く、 と会ったことがある 宗教者はただの橋に過ぎず、 いました。 のを繋ぐだけです。 のですが、 凛とした感じで、 壁のように繋ぎず、離れてい

つ て仕事 の関係で LI ろいろな宗教者 中には

2016年3月17日発行·231号

中華郵政台北誌字第909號執照登記為雜誌交寄

Printed In Taiwan

発行人 釋證嚴

慈済基金会 発行所

〒112 台湾台北市北投区立徳路2号

慈済日本語翻訳チーム

杜張瑤珍·張涵

校 閱 山田智美

(886) 02-2898-9000 (886) 02-2898-9920 FAX

E-mail: 019874@tzuchi.org.tw

慈済基金会日本支部

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 1-2-16

電 話 (03)3203-5651~5653

(03) 3203-5674 FAX

E-mail: jptzuchi@yahoo.com.tw tzuchi@tzuchi.jp

證厳法師のお言葉、委員や会員の体験談、慈済に関するニュース等を 日本の方々にお知らせする目的でこの小冊子を編集しました。日本文 への翻訳は素人である私たちがしましたので、不備な点や、つたない ところがあると思います。ご感想やご教示がいただけますれば幸いに 存じます。(日文組編集同人)